

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																																					
基礎看護学特論Ⅰ	1セメスター	1単位	30時間／15回																																					
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数																																						
	林 カオリ (実務経験 有)	時間／回																																						
事前学習内容																																								
学習進度に合わせて、事前に「看護覚え書」を読んでおく。																																								
科目概要・目的																																								
看護の在りようや政策は社会情勢に対応しながら変化する。そこで、過去、現在から未来の看護を創造するための基本となる概念や理論を学び、看護の対象である人間と人間のライフサイクルにおける健康への理解を深める。また、地域で暮らしを持続させるための保健・医療・福祉システムや看護の役割について学ぶ。																																								
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する																																								
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。																																								
授業計画																																								
<table border="0"> <tr> <td>1. 看護への導入</td> <td>6. 看護の展開と継続性</td> </tr> <tr> <td> 1)看護とは</td> <td> 1)チームアプローチ</td> </tr> <tr> <td> 2)看護の役割と責務</td> <td> 2)地域・在宅看護への継続</td> </tr> <tr> <td> 3)看護の場の広がり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 看護の対象の理解</td> <td>7. 看護技術と看護の思考過程</td> </tr> <tr> <td> 1)統合対としての人間</td> <td> 1)看護技術の概念</td> </tr> <tr> <td> 2)人間の成長・発達とライフサイクル</td> <td> 2)看護技術の専門性と質の保証</td> </tr> <tr> <td> 3)社会・文化的存在としての人間</td> <td> 3)看護実践の思考過程</td> </tr> <tr> <td> 4)人間理解のための3側面</td> <td> 4)看護のケアマネジメント</td> </tr> <tr> <td>3. 健康と病気における安寧の促進</td> <td> 5)臨床判断</td> </tr> <tr> <td> 1)人間にとどけた健康</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 2)健康への影響要因</td> <td>8. 看護における法的責任</td> </tr> <tr> <td> 3)ストレスと適応</td> <td> 1)法の概念と法的規制</td> </tr> <tr> <td> 4)疾病の状況と病期</td> <td> 2)医療事故における法的責任</td> </tr> <tr> <td>4. 看護実践のための理論的根拠</td> <td>9. 看護における倫理と価値</td> </tr> <tr> <td> 1)看護理論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 保健・医療・福祉システム</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 1)保健・医療・福祉の概念と活動の場</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 2)地域包括ケアシステム</td> <td>* 筆記試験(1時間：45分)</td> </tr> </table>			1. 看護への導入	6. 看護の展開と継続性	1)看護とは	1)チームアプローチ	2)看護の役割と責務	2)地域・在宅看護への継続	3)看護の場の広がり		2. 看護の対象の理解	7. 看護技術と看護の思考過程	1)統合対としての人間	1)看護技術の概念	2)人間の成長・発達とライフサイクル	2)看護技術の専門性と質の保証	3)社会・文化的存在としての人間	3)看護実践の思考過程	4)人間理解のための3側面	4)看護のケアマネジメント	3. 健康と病気における安寧の促進	5)臨床判断	1)人間にとどけた健康		2)健康への影響要因	8. 看護における法的責任	3)ストレスと適応	1)法の概念と法的規制	4)疾病の状況と病期	2)医療事故における法的責任	4. 看護実践のための理論的根拠	9. 看護における倫理と価値	1)看護理論		5. 保健・医療・福祉システム		1)保健・医療・福祉の概念と活動の場		2)地域包括ケアシステム	* 筆記試験(1時間：45分)
1. 看護への導入	6. 看護の展開と継続性																																							
1)看護とは	1)チームアプローチ																																							
2)看護の役割と責務	2)地域・在宅看護への継続																																							
3)看護の場の広がり																																								
2. 看護の対象の理解	7. 看護技術と看護の思考過程																																							
1)統合対としての人間	1)看護技術の概念																																							
2)人間の成長・発達とライフサイクル	2)看護技術の専門性と質の保証																																							
3)社会・文化的存在としての人間	3)看護実践の思考過程																																							
4)人間理解のための3側面	4)看護のケアマネジメント																																							
3. 健康と病気における安寧の促進	5)臨床判断																																							
1)人間にとどけた健康																																								
2)健康への影響要因	8. 看護における法的責任																																							
3)ストレスと適応	1)法の概念と法的規制																																							
4)疾病の状況と病期	2)医療事故における法的責任																																							
4. 看護実践のための理論的根拠	9. 看護における倫理と価値																																							
1)看護理論																																								
5. 保健・医療・福祉システム																																								
1)保健・医療・福祉の概念と活動の場																																								
2)地域包括ケアシステム	* 筆記試験(1時間：45分)																																							
評価方法																																								
筆記試験(90%)、課題(10%) 筆記試験と課題点の合計が60点以上で合格とする。 ただし、再試験はこの限りではない。																																								
使用テキスト																																								
「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論」 医学書院 「看護覚え書き」 現代社 「私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法」 日本看護協会出版会																																								
参考文献																																								
授業の中で隨時紹介する。																																								

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
基礎看護学特論 II	5~6 セメスター	1 単位	30 時間／ 15 回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	中尾 裕子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容	看護研究の学会に参加し、研究に関する姿勢と発表に伴うそれぞれ役割（発表者、座長、質問者等）を学びレポートする。				
科目概要・目的	看護の質の向上と保証には、臨床の中で実践している看護を批判的に考え建設的な変化を加える視点が重要である。本科目では、看護の発展に寄与する「研究」とそれに係る倫理の基本について学ぶ。また、ケーススタディを通して受け持ち患者へのより良い看護実践を科学的根拠に基づいて導き出す思考を養う。				
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。				
授業計画	<p>I 研究 (10時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.看護実践における研究の意義 2.看護研究の目的と分野 3.看護研究の方法とデータの収集方法 4.看護研究の進め方 5.看護研究の現状と方向 6.看護研究の対象となる人々の権利の保護 7.学会（学術集会）に参加 <p>II ケース・スタディ (15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ケース・スタディについて 2.ケース・スタディの取り組み方 3.ケース・スタディのまとめ方 4.ケース・スタディの評価 5.ケース・スタディ発表 <p>III 看護における倫理と価値(5時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.看護倫理とは 2.研究における看護倫理の必要性 3.倫理的課題への対応 				
評価方法	ケーススタディとケーススタディの発表および発表会への参加度で評価する。				
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 別巻 看護研究」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 別巻 看護倫理」 医学書院</p> <p>「わかりやすいケーススタディの進め方」 照林社</p>				
参考文献					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
基礎看護学援助論Ⅰ	1セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
看護の基本技術：安全安楽	土居 真理子	(実務経験 有)	4時間／2回
看護の基本技術：環境	中尾 裕子	(実務経験 有)	12時間／6回
看護の基本技術：観察・記録・報告	林 カオリ	(実務経験 有)	6時間／3回
看護の基本技術：コミュニケーション	中橋 優子	(実務経験 有)	8時間／4回
事前学習内容	<p>演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。</p> <p>指定された視聴覚教材を基に学習すること。</p>		
科目概要・目的	<p>生理的欲求が満たされ、安全で人間らしい生活が過ごせるように療養生活を援助することが看護技術の基本となる。本科目は4つの単元で構成する。単元1では、看護実践における安全・安楽な視点を学ぶ。単元2では、安心して療養生活が過ごせる環境について考え、対象に必要な生活環境を調整するための援助技術を学ぶ。単元3では、対象の健康状態を正確に把握するための観察技術、看護記録の種類と記載方法、看護記録の重要性や看護における報告の重要性・方法を学ぶ。単元4では、コミュニケーションの基礎的知識を理解し、対象にとって有益となる信頼関係を築くための技術を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。		
授業計画	<p>1. 安全・安楽 (4時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全とは 2) 安楽とは <p>2. 環境の調整 (12時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 快適で安全な生活と環境 2) 療養者の生活と環境 3) 病床の作り方と整備 4) 臥床患者のリネン交換の実際 (学内実習) <p>3. 観察・記録・報告 (6時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察の目的・方法 2) 看護記録の種類・記載方法 3) 報告の目的・方法 <p>4. コミュニケーション(7時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの意義・目的 2) コミュニケーションの技術 <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴、情報収集、説明の技術、アサーティブネス ・プロセスレコード 3) コミュニケーション障害がある人への対応 <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	筆記試験 (100%) 60点以上を合格とする		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院</p> <p>「看護がみえる Vol.1 基礎看護技術」 メディックメディア</p>		
参考文献			

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																								
基礎看護学援助論 II	1セメスター	1 単位	30 時間／ 15 回																								
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数																								
療養生活援助技術：活動と休息	中尾 裕子 (実務経験 有)		14 時間／ 7 回																								
療養生活援助技術：排泄	宇野 三奈子 (実務経験 有)		16 時間／ 8 回																								
事前学習内容	<p>演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。</p> <p>指定された視聴覚教材を基に学習すること。</p>																										
科目概要・目的	<p>生理的欲求が満たされ、安全で人間らしい生活が過ごせるように療養生活を援助することが看護技術の基本となる。本科目は2つの単元で構成する。単元1では、対象と自分自身の安全・安楽を守るためにボディメカニクスを活用した移動・移乗の技術を学ぶ。また、活動と休息の援助に必要となる基本的な知識を学び、技術・態度を習得する。単元2では、排泄は羞恥心を伴う行為であることを理解し、プライバシーへの配慮や自立に向けた援助を学ぶ。また、排泄が障害された時の処置の基本的知識を理解し対象個々の目的を達成するための技術を学ぶ。</p>																										
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。</p>																										
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1.活動と休息 (14時間)</td> <td>2. 排泄 (15時間)</td> </tr> <tr> <td>1)健康生活と活動・運動の意義</td> <td>1) 人間にとての排泄とは</td> </tr> <tr> <td>2)安楽な姿勢の保持と体位の変換</td> <td>2) 排泄援助に必要な基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3)移乗・移乗の援助技術(学内実習)</td> <td>3) 排泄に関する観察と判断</td> </tr> <tr> <td>4)体位と褥瘡の関係</td> <td>4) 排泄の基本的援助</td> </tr> <tr> <td>5)休息と睡眠の意義と援助</td> <td>(1) 床上排泄(学内実習)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2) ポータブルトイレ排泄(演習)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5) 排泄障害のある人の援助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1) 洗腸</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2) 摘便</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(3) おむつ交換(学内実習)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(4) 膀胱留置カテーテルの管理</td> </tr> </table>			1.活動と休息 (14時間)	2. 排泄 (15時間)	1)健康生活と活動・運動の意義	1) 人間にとての排泄とは	2)安楽な姿勢の保持と体位の変換	2) 排泄援助に必要な基礎知識	3)移乗・移乗の援助技術(学内実習)	3) 排泄に関する観察と判断	4)体位と褥瘡の関係	4) 排泄の基本的援助	5)休息と睡眠の意義と援助	(1) 床上排泄(学内実習)		(2) ポータブルトイレ排泄(演習)		5) 排泄障害のある人の援助		(1) 洗腸		(2) 摘便		(3) おむつ交換(学内実習)		(4) 膀胱留置カテーテルの管理
1.活動と休息 (14時間)	2. 排泄 (15時間)																										
1)健康生活と活動・運動の意義	1) 人間にとての排泄とは																										
2)安楽な姿勢の保持と体位の変換	2) 排泄援助に必要な基礎知識																										
3)移乗・移乗の援助技術(学内実習)	3) 排泄に関する観察と判断																										
4)体位と褥瘡の関係	4) 排泄の基本的援助																										
5)休息と睡眠の意義と援助	(1) 床上排泄(学内実習)																										
	(2) ポータブルトイレ排泄(演習)																										
	5) 排泄障害のある人の援助																										
	(1) 洗腸																										
	(2) 摘便																										
	(3) おむつ交換(学内実習)																										
	(4) 膀胱留置カテーテルの管理																										
* 筆記試験(1時間：45分)																											
評価方法	<p>筆記試験100% 60点以上を合格とする。</p> <p>* 移動・移乗に関しては客観的に評価を受け、技能及び態度が一定の基準に到達していることを条件とする (履修要綱第4条2項参照)</p>																										
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護がみえる Vol.1 基礎看護技術」 メディックメディア</p>																										
参考文献																											

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
基礎看護学援助論Ⅲ	1セメスター	1 単位	30 時間／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
療養生活援助技術：清潔と衣生活		窪田 祥子 (実務経験 有)	12 時間／ 6 回
療養生活援助技術：食事		植野 ルミ (実務経験 有)	10 時間／ 5 回
事前学習内容	演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。 指定された視聴覚教材を基に学習すること。		
科目概要・目的	生理的欲求が満たされ、安全で人間らしい生活が過ごせるように療養生活を援助することが看護技術の基本となる。本科目は2つの単元で構成する。清潔は人としての社会生活の秩序を維持する基本である。そこで、単元1では、清潔援助の方法選択の視点を学び、その人らしさを引き出し、療養生活が送れるよう援助方法を習得する。食事は生命の維持に不可欠である。そこで、単元2では、その人の食べる能力を最大限に引き出し、療養生活が豊かになるよう援助方法を習得する。		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。		
授業計画	1.清潔と衣生活 (21時間) 1)健康生活と清潔とは(清潔と衛生) 2)健康障害のある人の清潔の必要性 3)清潔を保つ援助 (1)口腔ケア (2)全身清拭 ①基本的な寝衣交換 ②健康障害がある人の寝衣交換 (点滴・ドレーン等の留置あり) (3)部分清拭 ①陰部洗浄 ②手足浴 (4)整容 (5)洗髪 4)衣服生活の意義 5)衣類の選択と着脱援助 6)全身清拭と陰部洗浄の実際(学内実習) 7)臥床患者の洗髪の実際(学内実習)		
* 筆記試験(1時間：45分)			
評価方法	筆記試験100% 60点以上を合格とする。 *陰部洗浄に関しては客観的に評価を受け、技能及び態度が一定の基準に到達していることを条件とする (履修要綱第4条2項参照)		
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護がみえる Vol.1 基礎看護技術」 メディックメディア		
参考文献			

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
基礎看護学援助論IV	2セメスター	1単位	30時間／15回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
フィジカルアセスメント	正木 康子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。 指定された視聴覚教材を基に学習すること。					
科目概要・目的					
診療の補助及び療養生活の援助を安全・安楽に実施するために、対象の身体的・精神的・社会的側面から健康状態を総合的に判断する基本的な技術を習得する。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。					
授業計画					
1. フィジカルアセスメント(23時間) 1) フィジカルアセスメントの重要性-意義					
2. フィジカルアセスメントの基本技術 1) 問診 2) 視診 3) 觸診 4) 打診 5) 聴診					
3. 一般状態のアセスメントと各部位のアセスメント 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測 3) 呼吸器系のアセスメント 4) 消化器系のアセスメント 5) 循環器系のアセスメント ・ 心音を含む ・ 心電図モニター 6) 筋・骨格器系のアセスメント 7) 神経系のアセスメント 8) 心理的・社会的側面のアセスメント					
4. バイタルサイン測定の実際(学内実習)					
* 筆記試験(1時間：45分)					
評価方法					
筆記試験100% 60点以上を合格とする。 バイタルサイン測定に関しては客観的に評価を受け、技能及び態度が一定の基準に到達していることを条件とする(履修要綱第4条2項参照)					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント」 メディックメディア					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数						
基礎看護学援助論Ⅴ	2セメスター	1単位	30時間／15回						
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数						
診療の補助技術：感染予防	林 カオリ (実務経験 有)		6時間／3回						
診療の補助技術：感染予防	木下 桂 (実務経験 有)		8時間／4回						
診療の補助技術：検査に伴う看護	土居 真理子 (実務経験 有)		16時間／8回						
事前学習内容	<p>演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。指定された視聴覚教材を基に学習すること。髄液に関する基本的な知識と髄液採取の看護について自己学習し授業に備える。</p>								
科目概要・目的	<p>医師の指示の下で行う診療の補助は、衛生上危害を生ずるおそれのある医行為のため、より高い安全性と確実性が要求される。本科目は感染予防に関する技術と検査に伴う診療の補助技術の2つの単元で構成する。単元1では、感染成立の条件および感染防止の基本を知り、感染を拡大させない安全な技術を習得する。単元2では、衛生上生ずる恐れのある危害を十分に理解し、より安全で確実な技術を習得する。</p>								
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。</p>								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">I 感染予防に関する技術 (14時間)</td><td style="vertical-align: top;">II 検査に伴う看護技術 (15時間)</td><td></td></tr> <tr> <td> 1. 感染の成り立ちと感染予防 2. 標準予防策 1)スタンダードプリコーション 2)衛生学的手洗い 3)個人防護用具(PPE)の基本 3. 院内感染とその予防 1)消毒と滅菌 2)滅菌物の取り扱い 3)感染性廃棄物の取り扱い 4. 医療施設における感染管理 1)感染管理とは 2)針刺し事故防止と安全管理 5. 清潔操作の実際 (学内実習) 1)滅菌手袋、ガウンの着脱 2)無菌操作 </td><td> 1. 診療場面における看護の役割 2. 検査の種類と援助方法 1)生体検査 2)検体検査 3)検査時の援助の実際 (1)脊髄液採取時の体位の固定 (2)尿検査 (3)導尿 3. 静脈血採血の援助方法 1)採血の適応と方法 2)静脈血採血法の実際 (学内実習) </td><td></td></tr> </table> <p>*筆記試験 (1時間:45分)</p>			I 感染予防に関する技術 (14時間)	II 検査に伴う看護技術 (15時間)		1. 感染の成り立ちと感染予防 2. 標準予防策 1)スタンダードプリコーション 2)衛生学的手洗い 3)個人防護用具(PPE)の基本 3. 院内感染とその予防 1)消毒と滅菌 2)滅菌物の取り扱い 3)感染性廃棄物の取り扱い 4. 医療施設における感染管理 1)感染管理とは 2)針刺し事故防止と安全管理 5. 清潔操作の実際 (学内実習) 1)滅菌手袋、ガウンの着脱 2)無菌操作	1. 診療場面における看護の役割 2. 検査の種類と援助方法 1)生体検査 2)検体検査 3)検査時の援助の実際 (1)脊髄液採取時の体位の固定 (2)尿検査 (3)導尿 3. 静脈血採血の援助方法 1)採血の適応と方法 2)静脈血採血法の実際 (学内実習)	
I 感染予防に関する技術 (14時間)	II 検査に伴う看護技術 (15時間)								
1. 感染の成り立ちと感染予防 2. 標準予防策 1)スタンダードプリコーション 2)衛生学的手洗い 3)個人防護用具(PPE)の基本 3. 院内感染とその予防 1)消毒と滅菌 2)滅菌物の取り扱い 3)感染性廃棄物の取り扱い 4. 医療施設における感染管理 1)感染管理とは 2)針刺し事故防止と安全管理 5. 清潔操作の実際 (学内実習) 1)滅菌手袋、ガウンの着脱 2)無菌操作	1. 診療場面における看護の役割 2. 検査の種類と援助方法 1)生体検査 2)検体検査 3)検査時の援助の実際 (1)脊髄液採取時の体位の固定 (2)尿検査 (3)導尿 3. 静脈血採血の援助方法 1)採血の適応と方法 2)静脈血採血法の実際 (学内実習)								
評価方法	<p>筆記試験100% 合計60点以上を合格とする。</p>								
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護がみえる Vol.2 臨床看護技術」 メディックメディア</p>								
参考文献									

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																		
基礎看護学援助論VI	2セメスター	1単位	30時間／15回																		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数																		
診療の補助技術：救急法	窪田 样子 (実務経験 有)		10時間／5回																		
診療の補助技術：吸入・吸引・罨法	森地 加織 (実務経験 有)		10時間／5回																		
統合演習	植野 ルミ (実務経験 有)		10時間／5回																		
事前学習内容	<p>演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。</p> <p>指定された視聴覚教材を基に学習すること。</p>																				
科目概要・目的	<p>救急・急変患者は、予期せぬ時や場で発生する。迅速な対応が出来る知識を深め、救命および急変時に必要な技術を身につけておくことは重要である。本科目は3つの単元で構成する。単元1では、対象の生命に影響する救急時の基礎的知識、技術および急変時においても対象を尊重した態度について学ぶ。単元2では、生命維持に必要となる呼吸・循環機能の恒常性を促進する基本的な看護技術を学ぶ。さらに、総合演習を通じて基本的な技術を応用し臨床判断力を身に付ける。</p>																				
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。</p>																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 救急法と看護(10時間)</td> <td>3)罨法とは</td> </tr> <tr> <td> 1)救急法の意義と適応</td> <td> (1)温罨法の援助の実際</td> </tr> <tr> <td> 2)対象者の救急時のアセスメント</td> <td> (2)冷罨法の援助の実際</td> </tr> <tr> <td> 3)救急状態にある対象者と家族への援助</td> <td>3. 総合演習(10時間)</td> </tr> <tr> <td> 4)救急の基本技術</td> <td> 1)呼吸(循環)を整える技術演習</td> </tr> <tr> <td> (1)一次救命処置(心肺蘇生法)</td> <td> (1)呼吸困難のある人への対応</td> </tr> <tr> <td> (2)止血法</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (3)包帯法</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (4)異物の除去</td> <td></td> </tr> </table>			1. 救急法と看護(10時間)	3)罨法とは	1)救急法の意義と適応	(1)温罨法の援助の実際	2)対象者の救急時のアセスメント	(2)冷罨法の援助の実際	3)救急状態にある対象者と家族への援助	3. 総合演習(10時間)	4)救急の基本技術	1)呼吸(循環)を整える技術演習	(1)一次救命処置(心肺蘇生法)	(1)呼吸困難のある人への対応	(2)止血法		(3)包帯法		(4)異物の除去	
1. 救急法と看護(10時間)	3)罨法とは																				
1)救急法の意義と適応	(1)温罨法の援助の実際																				
2)対象者の救急時のアセスメント	(2)冷罨法の援助の実際																				
3)救急状態にある対象者と家族への援助	3. 総合演習(10時間)																				
4)救急の基本技術	1)呼吸(循環)を整える技術演習																				
(1)一次救命処置(心肺蘇生法)	(1)呼吸困難のある人への対応																				
(2)止血法																					
(3)包帯法																					
(4)異物の除去																					
	<p>2. 吸入・吸引・罨法(9時間)</p> <p>1)吸入とは</p> <p>(1)酸素吸入の方法</p> <p>(2)噴霧吸入の方法</p> <p>2)吸引とは</p> <p>(1)吸引の種類と方法</p> <p>口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引</p>																				
	<p style="text-align: right;">*筆記試験(1時間:45分)</p>																				
評価方法	<p>筆記試験100% 合計60点以上を合格とする。</p>																				
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術II」 医学書院</p> <p>「看護がみえる Vol.1 基礎看護技術」 メディックメディア</p> <p>「看護がみえる Vol.2 臨床看護技術」 メディックメディア</p>																				
参考文献																					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
基礎看護学援助論VII	2セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
診療の補助技術：与薬	林 カオリ (実務経験 有)		時間／回
事前学習内容	<p>演習や学内実習を受ける際には、配布された資料を事前に熟読し、用語などを調べること。</p> <p>指定された視聴覚教材を基に学習すること。薬物投与経路に関する解剖図を学習すること。</p>		
科目概要・目的	<p>医師の指示の下で行う診療の補助は、衛生上危害を生ずるおそれのある行為であるため、より高い安全性と確実性が要求される。本科目では、薬物療法における基礎知識と看護師の役割を理解し、与薬の基本的な援助技術を習得する。また、薬物に関する衛生上の危害や薬物を取り扱う看護師の倫理について学び、安全で確実な与薬の技術を習得する。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。</p>		
授業計画	<p>1.与薬とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法の目的 2) 薬物の作用・排泄の機序 3) 与薬の原則と注意事項 4) 与薬における看護の役割 <p>2.与薬方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経口与薬 2) 直腸内与薬 3) 外用薬（塗布・塗擦、点眼、点入、点鼻、点耳、吸入） 4) 注射 <ul style="list-style-type: none"> (1) 注射器・注射針・アンプルの構造と取り扱い (2) 注射（皮下・皮内・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈内注射）の方法と留意点 (3) 筋肉内注射・皮下注射の実際（学内実習/4時間） <p>3.輸血</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 輸血の目的・適応 2) 輸血の種類・方法 <p style="text-align: right;">*筆記試験（1時間：45分）</p>		
評価方法	<p>筆記試験(100%) 60点以上で単位を認定する。</p> <p>皮下注射および筋肉内注射に関しては、客観的に評価を受け、技能及び態度が一定の基準に到達していることを条件とする(履修要綱第4条2項参照)</p>		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院</p> <p>「看護がみえる Vol.2 臨床看護技術」 メディックメディア</p> <p>「治療薬マニュアル2022」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」 医学書院</p> <p>「臨床検査データブック」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 別巻 臨床薬理学」 医学書院</p>		

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																
基礎看護学援助論VIII	2セメスター	1単位	30時間／15回																
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数																
看護の思考過程	中尾 裕子 (実務経験 有)		時間／回																
事前学習内容																			
事例の疾患に適応した「病態関連図」の作成。 授業進度に合わせて、情報の分析や解釈を行う。また、看護計画を立案する。																			
科目概要・目的																			
看護は対象のニーズに応じたものとなるよう適切な援助を見極めて提供する必要がある。そこで、対象の抱えている健康上、生活上の問題状況を論理的、科学的に思考し、解決にむけて看護援助および看護計画を導き出す方法論を学ぶ。																			
D Pとの関連 *特に関連の深いものを提示する																			
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる																			
授業計画																			
<table border="0"> <tr> <td>I 看護の思考過程</td> <td>3.分析、解釈、判断</td> </tr> <tr> <td>1.問題の発生と対処行動</td> <td>1)分析の視点</td> </tr> <tr> <td>2.看護の思考過程とは</td> <td>2)情報の意味</td> </tr> <tr> <td> 1)概念と歴史</td> <td>3)推論</td> </tr> <tr> <td> 2)問題解決過程との比較</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 3)看護理論との関連</td> <td>IV 問題状況の抽出と統合</td> </tr> <tr> <td> 4)クリティカルシンキング・科学的思考</td> <td>1.看護診断との関連</td> </tr> <tr> <td>3.倫理観と価値観</td> <td>(診断名、診断指標、関連因子)</td> </tr> </table>				I 看護の思考過程	3.分析、解釈、判断	1.問題の発生と対処行動	1)分析の視点	2.看護の思考過程とは	2)情報の意味	1)概念と歴史	3)推論	2)問題解決過程との比較		3)看護理論との関連	IV 問題状況の抽出と統合	4)クリティカルシンキング・科学的思考	1.看護診断との関連	3.倫理観と価値観	(診断名、診断指標、関連因子)
I 看護の思考過程	3.分析、解釈、判断																		
1.問題の発生と対処行動	1)分析の視点																		
2.看護の思考過程とは	2)情報の意味																		
1)概念と歴史	3)推論																		
2)問題解決過程との比較																			
3)看護理論との関連	IV 問題状況の抽出と統合																		
4)クリティカルシンキング・科学的思考	1.看護診断との関連																		
3.倫理観と価値観	(診断名、診断指標、関連因子)																		
<table border="0"> <tr> <td>II 情報収集</td> <td>V 解決策の立案</td> </tr> <tr> <td>1.情報源</td> <td>1.看護上の問題と目標</td> </tr> <tr> <td>2.情報収集方法</td> <td>2.期待される結果</td> </tr> <tr> <td>3.目的をもった情報収集</td> <td>3.具体策の立案</td> </tr> <tr> <td>4.情報収集の枠組みの理解 (コードンの機能的健康パターン)</td> <td>4.評価</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5.1～4の一貫性・関連性</td> </tr> </table>				II 情報収集	V 解決策の立案	1.情報源	1.看護上の問題と目標	2.情報収集方法	2.期待される結果	3.目的をもった情報収集	3.具体策の立案	4.情報収集の枠組みの理解 (コードンの機能的健康パターン)	4.評価		5.1～4の一貫性・関連性				
II 情報収集	V 解決策の立案																		
1.情報源	1.看護上の問題と目標																		
2.情報収集方法	2.期待される結果																		
3.目的をもった情報収集	3.具体策の立案																		
4.情報収集の枠組みの理解 (コードンの機能的健康パターン)	4.評価																		
	5.1～4の一貫性・関連性																		
<table border="0"> <tr> <td>III 情報整理(クラスタリング)</td> <td>VI 具体策の立案</td> </tr> <tr> <td>1.情報整理</td> <td>1.具体策</td> </tr> <tr> <td>2.主観的・客観的情報の使い分け</td> <td>2.S O A P 記録</td> </tr> </table>				III 情報整理(クラスタリング)	VI 具体策の立案	1.情報整理	1.具体策	2.主観的・客観的情報の使い分け	2.S O A P 記録										
III 情報整理(クラスタリング)	VI 具体策の立案																		
1.情報整理	1.具体策																		
2.主観的・客観的情報の使い分け	2.S O A P 記録																		
* 筆記試験(1時間：45分)																			
評価方法																			
課題の提出および筆記試験 60点以上で合格とする。																			
使用テキスト																			
「看護診断ハンドブック」 医学書院 「ポケット版基準看護計画」 照林社 「看護の思考過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント」 学研 「治療薬マニュアル2024」 医学書院																			
参考文献																			
「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」 医学書院 「臨床検査データブック」 医学書院																			

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
基礎看護技術総合演習	4セメスター	1 単位	15 時間／ 8 回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	林 カオリ (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
基礎看護学援助論VIII(看護の思考過程)で展開した事例を用いるので対象理解をしておく。 基礎看護学で学んだ知識、技術の復習をしておく。					
科目概要・目的					
科学的根拠に基づいた看護には、状況を判断するためのアセスメントを経過に即して絶え間なく行う力が必要である。本科目では事例演習を通して、タイムリーな判断と最善の看護を導き出す思考過程を訓練し、臨床判断力を身につける。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。					
授業計画					
【事例演習】(8時間) 1.疾患を持つ患者への看護～基礎看護学援助論VIIIで展開した事例を基にする 1) 対象の情報収集と情報の分析 2) 看護で解決すべき看護問題を明らかにする 3) 対象に必要な援助を導き出す(看護計画立案) 4) 対象の状況に応じた援助を実施する 5) 実施した援助の評価を行う					
【オムニバス形式演習】(4時間) 1.自然排泄(排尿)が困難な患者への看護 2.栄養維持が出来ない患者への看護 3.頻回の下痢を生じている患者の看護					
<p style="text-align: center;">1) 出現している症状の原因を 特定するための判断となる情報を収集 2) 収集した情報を基に状況判断 3) 対象の状況に応じたケアの提供</p>					
*筆記試験(1時間:45分)					
評価方法					
筆記試験(100%) 60点以上を合格とする					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護がみえる vol.1 フィジカルアセスメント」 メディックメディア 「看護がみえる vol.2 臨床看護技術」 メディックメディア					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数								
地域・在宅看護特論	1セメスター	2単位	30時間／15回								
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数									
飯田めぐみ (実務経験 有)		時間／回									
事前学習内容	甲賀市・湖南市の概要 (公式ホームページ参照)										
科目概要・目的	社会の変化と療養の場の拡大を踏まえ、対象と看護の基盤となる概念を理解し、地域で生活する人々とその家族について理解する。また、対象の暮らす地域(甲賀市・湖南市)の特性や暮らし、健康と生活環境を関連させて理解し、今後の学習へと発展させる力を培う。人と暮らしを中心とした生活環境を捉え、身近な社会資源の存在を把握する。環境と暮らしの相互作用や地域の環境及び資源が健康に与える影響を理解する。										
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。										
授業計画	<p>1.社会の変化と地域・在宅看護の意義</p> <p>2.人々の暮らしと地域・在宅看護</p> <p>3.暮らしの基盤としての地域の理解</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">地域を知ろう①</td><td style="width: 33%;">甲賀市・湖南市の地域特性を知る(GW)</td><td style="width: 33%;">フィールドワーク</td></tr> <tr> <td>地域を知ろう②</td><td>地域の自治振興会活動に参加</td><td></td></tr> </table> <p>4.地域・在宅看護の対象</p> <p>地域・在宅看護の対象者・家族の理解</p> <p>5.地域における暮らしを支える看護</p> <p>暮らしを支える地域・在宅看護</p> <p>暮らしの環境を整える看護</p> <p>広がる看護の対象と提供方法</p> <p>4. 地域・在宅看護マネジメント</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">地域・看護マネジメントとは</td><td style="width: 50%;">多様な場における地域・在宅看護マネジメント</td></tr> </table> <p>6.地域・在宅看護実践の場と連携</p> <p>さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし</p> <p>地域・在宅における多職種連携</p>			地域を知ろう①	甲賀市・湖南市の地域特性を知る(GW)	フィールドワーク	地域を知ろう②	地域の自治振興会活動に参加		地域・看護マネジメントとは	多様な場における地域・在宅看護マネジメント
地域を知ろう①	甲賀市・湖南市の地域特性を知る(GW)	フィールドワーク									
地域を知ろう②	地域の自治振興会活動に参加										
地域・看護マネジメントとは	多様な場における地域・在宅看護マネジメント										
評価方法	※GW・フィールドワークは中学校区で分ける（甲賀市7・湖南市4） *筆記試験 (1時間：45分)										
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践」 医学書院										
参考文献											

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
地域・在宅看護援助論Ⅰ	2セメスター	2単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
飯田 めぐみ (実務経験 有)		時間	回
事前学習内容	次回講義予定のテキスト該当ページを読み、動画がある場合は視聴しておく		
科目概要・目的	対象の持つ力を活用し、人々の生活と健康の質を高め、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを最後まで支えるための基礎的知識を学ぶ。対象となる地域で生活する人々とその家族、看護の基盤となる概念について理解する。また、安全・安心な暮らしを保健・医療・福祉との協働で実現する社会資源や支援方法、看護が担うマネジメントを理解する。		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。		
授業計画	<p>1.地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護 甲賀市・湖南市の地域包括ケアシステム 療養の場の移行に伴う看護／地域包括支援センター 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携</p> <p>2.地域・在宅看護に関わる制度とその活用 介護保険制度／医療保険制度／訪問看護制度 地域保険に関する法制度／高齢者に関する法制度／障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度／権利保障に関する制度</p> <p>3.地域・在宅看護の展開 訪問看護の特徴／在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開その1 訪問看護における看護過程の特徴 訪問看護サービスの展開その2 訪問看護過程の実際 訪問看護サービスの展開その3 事例展開 家庭訪問・初回訪問の演習</p> <p>4. 地域・在宅看護マネジメント 地域・看護マネジメントとは 多様な場における地域・在宅看護マネジメント</p> <p>5. 地域・在宅看護における安全を守る看護 暮らしを取り巻くリスクと安全対策 リスクマネジメント</p> <p>6. 地域・在宅における時期別の看護 健康な時期・外来受診期・入院時・在宅療養準備期・在宅療養移行期 在宅療養定期・急性憎悪期・終末期(グリーフケアを含む)・在宅療養終了期</p> <p>7. 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働</p> <p>* 筆記試験 (1時間：45分)</p>		
評価方法	筆記試験90%・課題10% (ループリック評価) 合計60点以上を合格とする。		
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践」 医学書院		
参考文献			

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
地域・在宅看護援助論Ⅱ	4セメスター	1単位	15時間／8回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	飯田めぐみ (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容	次回講義予定のテキスト該当ページを読み、動画がある場合は視聴しておく				
科目概要・目的	暮らしの場で行われる療養と看護は、安全に暮らし続けるために健康と暮らし2つの視点で対象と共に継続する必要がある。演習を通して、在宅療養を支える看護技術とリスクを回避する臨床判断を理解する。また、限られた資源や環境を活用し、その人の生活に応じた知識・技術・態度を学ぶ。				
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画	<p>1.呼吸を整える看護 講義・演習 在宅酸素療法 (HOT) / 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV)</p> <p>2.循環を整える看護 講義・演習 褥瘡予防・管理/創傷処置 (洗浄・保護)</p> <p>3.食事・栄養を整える看護 講義・演習 経鼻胃チューブの挿入/在宅経管栄養・PEGの管理/食事指導/在宅中心静脈栄養 (HPN)</p> <p>4.排泄を整える看護 講義・演習 膀胱留置カテーテルの管理/摘便・浣腸/陰部洗浄</p> <p>4. 地域・在宅看護マネジメント 地域・看護マネジメントとは 多様な場における地域・在宅看護マネジメント</p>				
評価方法	筆記試験100% 60点以上を合格とする。				
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践」 医学書院				
参考文献	「看護がみえる Vol.2 臨床看護技術」 メディックメディア				

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
地域・在宅看護援助論Ⅲ	6セメスター	1単位	15時間／8回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	飯田 めぐみ (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
地域・在宅看護特論で学習した甲賀市・湖南市の地域特性					
科目概要・目的					
特論で理解した地域特性を土台に、自助・互助・共助・公助の意義や看護の役割を踏まえ、最期まで住み慣れた地域で暮らし続けることが出来る理想の町（支援システム）を創造する。演習を通して、人と暮らしを大切に捉え、人と人との繋ぐ看護の役割や保健・医療・福祉の連携など、地域で暮らし続けることを支援するマネジメントを学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
1.各自が担当する中学校区に現存する施設・組織等について、その役割を調べ自助・互助・共助・公助及び保健・医療・福祉の機関に分類し、グループで共有する。 自助：自分のことは自分で行う（市場サービスの購入含む） 互助：地域などの自発的な相互の支え合い（ボランティア、住民組織の活動など） 共助：リスクを共有する者同士の相互の支え合い（社会保険制度及びサービス） 公助：福祉のような税金に拠る支え合い（一般財源による高齢者福祉事業等、生活保護など） 保健機関：保健所、市町村、地域包括支援センターなど 医療機関：病院、診療所、歯科医院、薬局、訪問看護ステーションなど 福祉機関：市町村、地域包括支援センター、福祉事務所、介護老人福祉施設など					
2.地域特性を踏まえ、不足している社会資源や組織・機関についてグループで意見を交換する。					
4. 地域・在宅看護マネジメント 地域・看護マネジメントとは 多様な場における地域・在宅看護マネジメント					
5.訪問看護ステーションを立ち上げ、利用者向けにそのステーションを紹介するパンフレットを作成する。 (実施主体、実施形態・所在地・連絡先、管理者・人員・従事者、対象者・サービス内容、利用料、一番PRしたいこと)					
6.各地区の最も必要な支援システムと訪問看護ステーションについて全体で共有する。					
※GW・調査地区は中学校区で分ける（甲賀市7・湖南市4）					
* 筆記試験 (1時間：45分)					
評価方法					
筆記試験50%・レポート50%（ループリック評価） 合計60点以上を合格とする。					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践」 医学書院					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																																																																								
成人看護学特論	2セメスター	1単位	30時間／15回																																																																								
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数																																																																									
	北川 敦子 (実務経験 有)	時間／回																																																																									
事前学習内容																																																																											
<ul style="list-style-type: none"> ・エリクソン、ハヴィガースト、レビンソンの成人期の発達課題の特徴についてまとめておく。 ・成人保健の動向（人口動態、死亡率、有病率など）について調べる。 																																																																											
科目概要・目的																																																																											
<p>社会的役割が大きい成人期の健康を支援するためには、変化し続ける成人の特徴を捉える必要がある。そのため本科目では、成人の発達段階や保健の動向から生活と健康障害の関連について理解する。また、学習者としての対象を尊重し健康への参画を促す看護を学ぶ。</p>																																																																											
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する																																																																											
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。																																																																											
授業計画																																																																											
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">I. 成人の生活と健康</td><td style="vertical-align: top;">III. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援</td><td style="vertical-align: top;"></td><td style="vertical-align: top;"></td></tr> <tr> <td>1. ライフサイクルからみた成人</td><td>1. 移行支援の基礎知識</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> 1) 成人期の発達課題</td><td>2. 継続的な移行を支える支援</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> 2) 青年期の特徴</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> 3) 壮年期の特徴</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> 4) 向老期の特徴</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2. 働いて生活を営むこと</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3. 成人の学びの特徴</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">II. 成人の生活と環境</td><td colspan="2">IV. 新たな治療法、先端医療と看護</td></tr> <tr> <td colspan="2">1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康</td><td colspan="2">1. 移植・再生医療</td></tr> <tr> <td colspan="2"> 1) 生活習慣と健康問題</td><td colspan="2">V. 成人への看護アプローチ</td></tr> <tr> <td colspan="2"> 2) 生活ストレスと健康問題</td><td colspan="2">1. 成人への看護アプローチの基本(グループワーク)</td></tr> <tr> <td colspan="2"> 3) 性と健康問題</td><td colspan="2">1) 大人の健康行動の捉え方</td></tr> <tr> <td colspan="2"> 4) 職業・労働と健康問題</td><td colspan="2">2) 行動変容を促進するアプローチ</td></tr> <tr> <td colspan="2"> 5) 社会状況が成人の健康生活に与える影響 (グループワーク)</td><td colspan="2">3) 集団における調和や変化を促す看護アプローチ</td></tr> <tr> <td colspan="2">2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム</td><td colspan="2">4) 意思決定支援</td></tr> <tr> <td colspan="2">3. 保健・医療・福祉システムの連携</td><td colspan="2" rowspan="8"></td></tr> </table>				I. 成人の生活と健康	III. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援			1. ライフサイクルからみた成人	1. 移行支援の基礎知識			1) 成人期の発達課題	2. 継続的な移行を支える支援			2) 青年期の特徴				3) 壮年期の特徴				4) 向老期の特徴				2. 働いて生活を営むこと				3. 成人の学びの特徴								II. 成人の生活と環境		IV. 新たな治療法、先端医療と看護		1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康		1. 移植・再生医療		1) 生活習慣と健康問題		V. 成人への看護アプローチ		2) 生活ストレスと健康問題		1. 成人への看護アプローチの基本(グループワーク)		3) 性と健康問題		1) 大人の健康行動の捉え方		4) 職業・労働と健康問題		2) 行動変容を促進するアプローチ		5) 社会状況が成人の健康生活に与える影響 (グループワーク)		3) 集団における調和や変化を促す看護アプローチ		2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム		4) 意思決定支援		3. 保健・医療・福祉システムの連携			
I. 成人の生活と健康	III. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援																																																																										
1. ライフサイクルからみた成人	1. 移行支援の基礎知識																																																																										
1) 成人期の発達課題	2. 継続的な移行を支える支援																																																																										
2) 青年期の特徴																																																																											
3) 壮年期の特徴																																																																											
4) 向老期の特徴																																																																											
2. 働いて生活を営むこと																																																																											
3. 成人の学びの特徴																																																																											
II. 成人の生活と環境		IV. 新たな治療法、先端医療と看護																																																																									
1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康		1. 移植・再生医療																																																																									
1) 生活習慣と健康問題		V. 成人への看護アプローチ																																																																									
2) 生活ストレスと健康問題		1. 成人への看護アプローチの基本(グループワーク)																																																																									
3) 性と健康問題		1) 大人の健康行動の捉え方																																																																									
4) 職業・労働と健康問題		2) 行動変容を促進するアプローチ																																																																									
5) 社会状況が成人の健康生活に与える影響 (グループワーク)		3) 集団における調和や変化を促す看護アプローチ																																																																									
2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム		4) 意思決定支援																																																																									
3. 保健・医療・福祉システムの連携																																																																											
* 答記試験(1時間：45分)																																																																											
評価方法																																																																											
答記試験 100% 60点以上を合格とする。																																																																											
使用テキスト																																																																											
「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論」 医学書院																																																																											
参考文献																																																																											
「国民衛生の動向・厚生の指標 2024/2025」 厚生労働統計協会 「公衆衛生がみえる」 メディックメディア																																																																											

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人看護学援助論Ⅰ	2セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
経過別看護：急性期	北川 敦子 (実務経験 有)		18時間／9回
経過別看護：回復期/慢性期	中橋 優子 (実務経験 有)		6時間／3回
経過別看護：終末期	北川 敦子 (実務経験 有)		6時間／3回
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期・慢性期・回復期・終末期に対するイメージを各自まとめておく。 ・授業進度に合わせてテキストを読んでおく。 		
科目概要・目的	<p>健康の状態は常に変化するため、あらゆる健康レベルに応じた看護を実践する必要がある。そのため本科目では、各領域で活用できる経過別看護の基本的な知識・技術・態度を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p>I.経過別看護の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人の健康状態の経過 2.健康状態の経過に応じた看護の目的 <p>II.回復期にある人を支える看護 (回復期/慢性期) (6時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.回復期にある人の理解 2.回復を促進する看護 <p>III.慢性病とともに生きる人を支える看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.慢性病とともに生きる人の理解 2.セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 3.エンパワメントを促進する看護 4.コンプライアンス・アドヒアランスを高める看護 5.自己効力感を高める看護 <p>IV.健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 (急性期) (17時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.健康の急激な破綻をきたした人の理解 2.呼吸機能・循環機能・栄養を回復・維持するための看護 3.クリティカルケア 4.周手術期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1)麻酔に伴う生体侵襲 (術前・術後) 2)手術を受けた人の回復を促進する看護 <p>V.人生の最期のときを支える看護 (終末期) (6時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.終末期医療の概念と現状 2.終末期の身体・心理・社会的特徴 3.緩和ケアの実際と基本技術 (2時間 外部講師) 4.家族アセスメントと看護援助 <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	<p>筆記試験(100%) 60点以上を合格とする。</p>		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院</p>		

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人看護学援助論Ⅱ	3セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
呼吸機能に障害がある人の看護	中橋 優子 (実務経験 有)		16時間／8回
循環機能に障害がある人の看護	北川 敦子 (実務経験 有)		14時間／7回
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器の解剖・生理を復習をしておく。 循環器の解剖・生理を復習をしておく。 		
科目概要・目的	<p>呼吸・循環機能は、生命維持に直結しており重要な役割を担っている。そのため本科目では、呼吸と循環の機能及び障害を理解し、疾患のある人の特徴を踏まえたうえで、健康の保持・増進・回復を促進する看護を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。		
授業計画	<p>I.呼吸機能障害のある人の看護 (15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸機能障害と日常生活 主要症状と看護 主要疾患の検査・治療に伴う看護 (気管支喘息、肺癌、慢性閉塞性肺疾患、気胸など) 看護の実際 (学内演習) (酸素吸入、気管内吸引、人工呼吸器、体位ドレナージなど) <p>II.循環機能障害のある人の看護 (14時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療の動向と看護 主要症状と看護 主要疾患の検査の看護 <ul style="list-style-type: none"> 心電図検査(学内演習) 運動負荷試験、血行動態モニタリング、画像診断など 循環機能障害に伴う治療の看護 (薬物療法、カテーテル治療、手術療法など) 心不全患者の看護 (心不全、血圧異常、不整脈など) <p>III.生命維持機能障害のある人の看護の実際 (事例展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心不全の急性増悪の人の看護 <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	筆記試験(100%) 合計60点以上を合格とする。		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院</p>		

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人看護学援助論III	3セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
消化機能に障害がある人の看護	北川 敦子 (実務経験 有)		18時間／9回
排泄機能に障害がある人の看護	北川 敦子 (実務経験 有)		12時間／6回
事前学習内容	<p>消化機能(消化・吸収、通過)の解剖・生理を復習しておく。</p> <p>腎臓の解剖・生理を復習しておく。</p>		
科目概要・目的	<p>栄養の消化・吸収は、エネルギーの生成に必要な機能である。また、排泄による体液の調節は恒常性の維持に重要な役割をもたらす。そのため本科目では、消化・吸収および排泄の機能と障害を理解し、健康の保持・増進・回復を促進する看護を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p>I.消化・吸収・代謝機能障害のある人の看護 (17時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.消化・吸収障害に伴う症状と看護 2.経管栄養の実際と看護 3.主要疾患の看護 (潰瘍、潰瘍性大腸炎、クロール病、胃癌など) 4.代謝障害に伴う症状と看護 5.治療や検査に必要な看護 <p>II.周手術期にある人の看護の実際 (事例展開)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.全身麻酔による胃切除術を受ける人の看護 <p>III.排泄機能障害のある人の看護 (12時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.排泄機能障害の症状と看護 2.排泄経路に障害のある人の看護 3.腎臓機能に障害のある人の看護 4.透析療法を受ける人の看護 5.排泄経路に変更を生じた人の看護 (2時間 外部講師) 6.排泄を支援する看護 (ドレーン管理、ストーマ管理) <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	<p>筆記試験(100%) 合計60点以上を合格とする。</p>		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院</p>		

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人看護学援助論IV	4セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
生体防御機能に障害がある人の看護	森地 加織 (実務経験 有)		16時間／8回
内部環境調節機能に障害がある人の看護	中橋 優子 (実務経験 有)		14時間／7回
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生体防御機能について復習しておく。 ・内部環境調節機能について復習しておく。 		
科目概要・目的	<p>生体の防御機能、内部環境調節機能は生体内の環境の維持に重要な役割を担っている。そこで本科目では、生体防御と内部環境調節の機能及び障害を理解し、健康の保持・増進・回復を促進する看護を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p>I.生体防御機能障害のある人の看護 (15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.生体防御機能、生体を攻撃する因子・要因 2.生体防御機能障害の症状と看護 3.主要疾患の検査・治療に伴う看護 (白血病、悪性リンパ腫、AIDS、自己免疫疾患) 4.看護の実際 (学内演習) ・輸血療法(赤血球製剤、血漿製剤、血小板製剤) 5.悪性リンパ腫患者の看護の実際 (事例展開) (情報の分類とアセスメントまで) <p>II.内部環境調節機能障害のある人の看護 (14時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ホルモンの機能 2.ホルモン分泌異常・障害に伴う症状と看護 3.主要疾患の検査・治療に伴う看護 (甲状腺疾患、糖尿病などのホルモン異常疾患) 4.看護の実際 (学内演習) (簡易血糖測定、インスリン注射など) <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	<p>筆記試験(100%) 合計60点以上を合格とする。</p>		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院</p>		

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人看護学援助論Ⅴ	3セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
感覚・認知機能に障害がある人の看護	中橋 優子 (実務経験 有)		20時間／10回
運動機能に障害がある人の看護	森地 加織 (実務経験 有)		10時間／5回
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経系の解剖・生理について復習しておく。 ・運動器の解剖・生理について復習しておく。 		
科目概要・目的	<p>脳・神経系は生命活動の中核である。また、筋・骨格器系は運動を成り立たせる働きをもつ。そのため本科目では、脳・神経系、運動器系の機能及び障害を理解し、健康の保持・増進・回復を促進する看護を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p>I.感覚・認知機能障害のある人の看護 (19時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.脳・神経機能とその障害 <ul style="list-style-type: none"> ・生命維持活動を調整する機能 2.意識障害患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・瞳孔の確認 (学内演習) 3.高次脳機能障害患者の看護 4.脳血管障害患者(脳出血、脳梗塞) <ul style="list-style-type: none"> ・麻痺のある患者の看護 5.開頭手術を受ける患者の看護 6.感覚器に障害のある人の看護 7.脳腫瘍患者の看護 <p>II.運動機能障害のある人の看護 (10時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.運動機能に障害を持つ人の理解 2.外傷による障害がある人の看護 (骨折) 3.脊椎や関節に障害のある人の看護 (椎間板ヘルニア、関節リウマチ) 4.神経に損傷がある人の看護 (脊髄損傷) 5.外傷による障害がある人の看護の実際 (学内演習) <ul style="list-style-type: none"> ・介達牽引(骨盤牽引など) ・事例から臨床判断を行う <p>III.認知知覚・運動機能に障害がある人の看護の実際 (事例展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳腫瘍のある人の看護 <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	<p>筆記試験(100%) 合計60点以上を合格とする。</p>		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院</p>		

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人看護学援助論VI	4セメスター	1単位	30時間／15回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
中橋 優子 (実務経験 有)		時間／回	
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護学で学んだ技術の復習・技術練習しておく。 既習の知識の復習。・進度に合わせた事前学習。 		
科目概要・目的	<p>療養の場の広がりに応じて看護の役割や活動場所の多様化が進む中、その場の状況に応じた看護実践能力が求められる。そのため本科目では、対象の状態が変化する場の体験を通し、既習の学習内容を活用しながら臨床判断を学ぶ。また、優先度の判断や安全への配慮など対象にとって最善の看護を導き出す。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p>【シミュレーション演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1)臨床判断とは 2)シミュレーションの方法 (実践→リフレクション→修正・実践を繰り返す) 2. 循環器疾患を持つ人の看護の実際 慢性心不全の患者の状態を観察し、必要な看護を導く。 3. 全身麻酔を受ける人の看護の実際 術後の患者の状態を観察し、必要な看護を導く。 4. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 慢性閉塞性肺疾患の患者の状態を観察し、必要な看護を導く。 5. 人工呼吸器管理中の患者への看護 人工呼吸器管理中の患者の状態を観察し、必要な看護を導く。 <p>* 筆記試験(1時間：45分)</p>		
評価方法	<p>筆記試験(50%)+ルーブリック評価(50%) 合計60点以上を合格とする。</p>		
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院 「看護学生のための臨床判断に必要な臨床推論」 ヴィクソンインターナショナル</p>		

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
老年看護学特論	2セメスター	1単位	30時間／15回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数		
	窪田 祥子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
高齢者に関する現代社会の情報を収集する。また、明治後期から昭和、平成に起こった社会の出来事や流行したもの・歌を調べておく。					
科目概要・目的					
超高齢社会において、老年看護学の果たす役割はますます重要となっている。そこで本科目では高齢者とその家族の尊厳について理解を深めるため、加齢に伴う変化と暮らしとの関連、高齢者を取り巻く環境・制度を学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
1.高齢者の理解					
1) ライフサイクルからみた老年期					
2) 加齢と老化					
3) 高齢者の生きてきた時代背景					
4) 老年期の発達課題					
5) 高齢者とQOL					
6) 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴（加齢に伴う変化）					
2.超高齢社会の保健・医療・福祉					
1) 高齢者の統計的特徴					
2) 高齢者の暮らしを支える制度					
3) 高齢者と家族					
4) 高齢者の人権					
3.介護保険制度	(2時間 外部講師)				
1) 制度創設の背景と目的					
2) 給付対象とサービス内容					
3) サービス利用の手続き					
*筆記試験（1時間：45分）					
評価方法					
筆記試験（90%）、レポート課題（10%）、合計で60点以上を合格とする。					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」 医学書院					
「系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論」 医学書院					
「国民衛生の動向・厚生の指標」 厚生労働統計協会					
参考文献					
「ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害」 MCメディア出版					
「老年看護学 概論と看護の実践」 ヌーベルヒロカワ					

【専門分野】		必須科目						
科目名		開講時期	単位数	科目時間数／授業回数				
老年看護学援助論Ⅰ		3セメスター	2単位	30時間／15回				
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数				
		窪田 祥子 (実務経験 有)		時間／回				
事前学習内容		老年看護学特論の学習内容。特に「1.高齢者の理解」に関して復習をしておく。また、基礎看護学援助論で学んだ看護技術を再度学習しておく。						
科目概要・目的		高齢者は加齢に伴う変化や健康障害により、日常の生活が困難となっていく。人生の最終段階において生活の質を保ち、安心した暮らしの持続が重要である。そのため本科目では、科学的思考に基づいて高齢者の疾病と生活機能を捉え、その力を引き出す日常生活援助技術と高齢者看護の基本的技術、安らかな死を支える看護を学ぶ。また、活動制約となる環境について考え、高齢者が自分らしく自立して過ごすための社会資源とその活用を学ぶ。						
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する		DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。						
授業計画		<p>1.高齢者の暮らしを支える看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者看護の基本的技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーション (2) フィジカルアセスメント 2) 高齢者の日常生活援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食生活の援助 (食事介助 演習) (2) 清潔の援助 (髭剃り・爪切り・耳垢除去 演習) (3) 排泄の援助 (おむつ交換 演習) (4) 活動・休息・睡眠の援助 (5) 歩行・移動の援助 (6) 転倒・転落予防の援助 (7) 廃用性症候群予防の援助 (褥瘡予防 演習) <p>2.高齢者の生活環境と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の生活環境 2) 自立を支援する環境を考える (演習) <p>3.高齢者の安らかな死を支える看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の死と医療 2) 終末期看護の実際 3) 家族への支援 <p>4.認知症のある人の暮らしを支える看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症の病態・診断・治療 2) 症状の理解とケア 3) 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本 						
*筆記試験 (1時間：45分)								
評価方法		筆記試験 (90%)、レポート課題 (10%)、合計で60点以上を合格とする。						
使用テキスト		<p>「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論」 医学書院</p>						
参考文献		<p>「ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」 メディカ出版</p> <p>「ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」 メディカ出版</p> <p>「老年看護学 概論と看護の実践」 ヌーヴェルヒロカワ</p>						

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
老年看護学援助論Ⅱ	4セメスター	1単位	15時間／8回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
窪田 祥子 (実務経験 有)		時間／回	
事前学習内容			
老年看護学特論の学習内容。特に「1.高齢者の理解」に関して復習をしておく。また、授業計画に提示した疾患と症状に関する病態・治療について学習しておく。			
科目概要・目的			
高齢者の健康状態は、加齢に伴う機能低下により生活環境の変化や侵襲の影響を受け易い。また、複数の疾患に罹患していることが多く、その病態は複雑で重症化しやすい特徴がある。そこで本科目では、高齢者に起こりやすい疾患や症状に焦点を当て、病態、治療、二次的障害の予防、回復を促進する看護を学ぶ。			
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する			
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。			
授業計画			
<p>1.治療・処置を受ける高齢者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法における看護 2) 手術療法における看護 <p>2.高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大腿骨頸部骨折 2) 老人性白内障 3) パーキンソン病 4) 前立腺肥大症 5) 高齢者に起こりやすい症状 <ol style="list-style-type: none"> (1) 浮腫 (2) 貧血 (3) 脱水・電解質異常 (4) 低体温・熱中症 (5) 痛み (6) しびれ (7) めまい (8) スキン-テア 			
*筆記試験 (1時間:45分)			
評価方法			
筆記試験(100%)、60点以上を合格とする。			
使用テキスト			
<p>「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論」 医学書院</p>			
参考文献			
<p>「ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」 メディカ出版</p> <p>「ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」 メディカ出版</p> <p>「老年看護学 概論と看護の実践」 ヌーヴェルヒロカワ</p>			

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
小児看護学特論	3セメスター	1単位	30時間／15回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	植野 ルミ (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容	心のしくみと行動（発達）、人体の構造と機能（呼吸・循環・消化・血液造血機能、胎児循環）				
科目概要・目的	未知なる可能性をもち、日々、目覚ましく成長発達する子どもの各発達段階における変化を知ることは重要である。本科目は、子どもの成長発達と子どもを取り巻く社会を理解し、よりよい健康を獲得するための家族を含めた支援について学ぶ。また、子どもの権利を尊重した小児看護の役割について理解する。				
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画	<p>1. 子どもとは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の対象 2) ライフサイクルからみた小児期 3) 小児看護の変遷 <p>2. 子どもの成長発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長発達とは 2) 新生児 3) 乳児 4) 幼児 5) 学童 6) 思春期・青年期 <p>3. 社会の中の子ども</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもと家族 2) 子どもに関する諸統計 3) 母子保健行政と施策 4) 学校保健と予防接種 5) 子どもと家族をめぐる諸問題 6) テーマ別討論 <p>4. 小児看護とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの権利と小児看護における倫理(インフォームドアセント) 2) 小児看護の課題 <p>* 答記試験（1時間：45分）</p>				
評価方法	筆記試験（90%）+レポート課題（10%） 合計60点以上を合格とする。				
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児看臨床看護総論」 医学書院 「国民衛生の動向・厚生の指標」厚生労働統計協会				
参考文献					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
小児看護治療論	3セメスター	1単位	15時間／8回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	田口 周馬 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
人体の構造と機能、病態治療論（染色体、胎児循環、呼吸・循環・消化・血液造血器など） 学習進度に合わせテキストを読む。					
科目概要・目的					
子どもは生理的・発達的特徴から、環境の変化や疾病などにより健康状態が急激に変化しやすい。本科目は、小児におこりやすい健康障害について病態生理や症状、治療について理解する。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
<p>1. 子どもの身体的、生理的特徴</p> <p>1)子どもの生理的特徴 2)子どもの病的状態とその徴候</p> <p>2. 子どもにみられる主な健康障害</p> <p>1)染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 2)新生児の疾患 3)内分泌・代謝性疾患 4)免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 5)小児の感染症 6)呼吸器疾患 7)循環器疾患 8)消化器疾患 9)血液・造血器疾患 10)腎・泌尿器及び生殖器疾患 11)神経疾患 12)運動器疾患 13)精神疾患</p>					
*筆記試験（1時間：45分）					
評価方法					
筆記試験(100%)					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論」 医学書院					
参考文献					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
小児看護学援助論Ⅰ	4セメスター	1単位	30時間／15回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数		
植野 ルミ (実務経験 有)		時間／回			
事前学習内容	小児看護学特論、小児看護学治療論を想起すること。				
科目概要・目的	子どもは発達段階の違いによって健康や病気の理解に個別差がある。そのため、健康障害が子どもの成長発達や家族に及ぼす影響を理解し、発達段階・健康レベルに応じた適切な援助の方法と臨床判断を学ぶ。また、子どもと家族の健康の保持・増進・回復及び成長発達を促進する看護について理解する。				
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画	<p>1. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響 1)子どもの病気の理解 (子どもの理解に合わせた説明) 2)病気・治療・入院に伴うストレス 3)子どもの健康問題が家族に及ぼす影響</p> <p>2. 病院における子どもと家族の看護 1)外来における子どもと家族の看護 (1)緊急度の把握 (2)トリアージ</p> <p>3. さまざまな健康段階にある子どもと家族の看護 1)慢性期における子どもと家族の看護 (事例) 2)急性期における子どもと家族の看護 (事例) 3)終末期における子どもと家族の看護 (1)子どもの死の捉え方 (2)痛み</p> <p>4. さまざまな状況下における子どもと家族の看護 1)手術を受ける子どもと家族の看護 (事例、プレパレーション) (1)小児の手術の特徴 2)救急処置が必要な子どもと家族の看護 (1)小児の一時救命処置 (心肺蘇生) (2)子どもの誤飲・誤嚥 (3)子どもの熱傷 3)虐待を受けている子どもと家族の看護</p> <p>5. 低出生体重児 1)低出生体重児とは 2)低出生体重児の看護</p> <p>6. 心身に障害がある子どもと家族の看護 1)先天性疾患、発達障害のある子どもと家族の看護 (事例) 2)医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護 3)災害時の子どもと家族の看護</p>				
*筆記試験 (1時間:45分)					
評価方法	筆記試験 (90%) + レポート課題(10%) 合計60点以上を合格とする				
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護各論」 医学書院				
参考文献					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数	
小児看護学援助論Ⅱ	4セメスター	1単位	15時間／8回	
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数	
	植野 ルミ (実務経験 有)		時間／回	
事前学習内容	基礎看護技術（バイタルサイン測定、与薬、輸液管理、酸素療法、吸引など）			
科目概要・目的	子どもの発達段階や健康問題に応じた小児看護技術（健康状態把握、検査・処置、生活援助）や意思決定支援（インフォームドアセント、プレパレーションなど）、臨床判断を学ぶ。また、倫理的配慮を行いながら安全・安楽な実践力を身につける。			
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。			
授業計画	<p>1. 子どものアセスメント 1)バイタルサインの看護の実際 (学内実習) 2)身体計測の看護の実際 (学内実習)</p> <p>2. 治療・検査・処置に伴う技術と看護 1)与薬の実際 (学内実習) (1)経口与薬 (2)座薬 (3)経皮・外用薬 2)輸液管理の実際 3)検体採取の実際 (1)採尿 (2)腰椎穿刺 4)呼吸症状の緩和の看護の実際 (学内実習) (1)鼻腔・口腔吸引 (2)気管内吸引 (3)酸素療法 (4)吸入療法 5)経管栄養の看護の実際 (1)胃管挿入 6)閉鎖式保育器の取り扱いの実際 (学内実習)</p> <p>3. さまざまな健康段階における子どもと家族への看護 看護の思考過程</p> <p>4. プレパレーション演習</p>			
*筆記試験(1時間：45分)				
評価方法	筆記試験(90%) + レポート課題 (10%) 合計60点以上を合格とする			
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児看臨床看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論」 医学書院			
参考文献				

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
母性看護学特論	3セメスター	1単位	30時間／15回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	宇野 三奈子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
既習の人体の構造と機能や基礎看護学の知識を基に、学習進度に沿って教科書の内容の予習をする。 社会の中のジェンダーに関する事象に関心を持ち、自分の考えをまとめる。					
科目概要・目的					
母性看護学は女性とその家族・地域・社会を対象とした性と生殖に関わる看護である。母性看護に必要な知識・技術・態度を習得するため、本科目では母性の特性と健康に影響を及ぼす諸因子及び動向を理解し、母性の健康保持・増進に向けての看護の役割を学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
1. 母性看護の概念			講義・演習		
1)母性とは、家族の機能					
2)母性看護の基盤となる概念					
3)現代社会の妊娠・出産をめぐる倫理的問題					
2. 母性看護の背景			講義		
1)母性看護の変遷、母子保健の動向					
2)母子保健施策、母性看護の場と職種					
3)家族、社会的環境					
3. 母性看護の対象理解			講義		
1)生殖器の形態・機能、性周期					
2)性分化、性の概念、性行動					
3)セクシュアリティ、性の多様性					
4)母性の発達、母子関係			講義		
4. 女性のライフステージ各期における看護			講義		
1)思春期・成熟期・更年期・老年期の定義・特徴					
2)各期の健康問題と看護の視点(保健指導)					
5. リプロダクティブヘルスケア			講義・演習		
1)家族計画、受胎調節					
2)性感染症、性暴力、児童虐待、喫煙女性					
3)人工妊娠中絶			講義・演習		
* 筆記試験 (1時間:45分)					
評価方法					
筆記試験(80%) + 提出課題・グループワーク参加状況(20%) 60点以上を合格とする。					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論」 医学書院					
参考文献					
「国民衛生の動向」 厚生統計協会					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
母性看護治療論	3セメスター	1単位	15時間／8回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数		
	西村 宙起 (実務経験 有)		2時間／1回		
	高橋 真理子 (実務経験)		13時間／7回		
事前学習内容					
既習の人体の構造と機能や基礎看護学の知識を基に、学習進度に沿って教科書の内容の予習をする。					
科目概要・目的					
母性の対象を正確にアセスメントするため、妊娠、分娩、産褥、胎児の生理と経過及び疾病の病態、原因、症状、検査、処置について学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
I 妊娠、分娩、産褥の生理と経過	講義	II 妊娠、分娩、産褥の異常	講義		
1. 妊娠の生理と経過		1. 妊娠の異常			
1)妊娠の生理		1)妊娠期間の異常			
2)妊婦健康診査		2)妊娠に伴う異常			
3)胎児の発育・健康状態		3)母体合併症・感染症			
2. 分娩の生理と経過		2. 分娩の異常			
1)分娩の三要素		1)分娩の三要素の異常			
2)分娩経過		2)胎児機能不全			
3)分娩機転		3)異常出血・産科手術			
3. 産褥の生理と経過		3. 産褥の異常			
1)退行性変化		1)出血・感染症			
2)進行性変化		2)産後うつ			
III 生殖補助医療					
1)遺伝相談					
2)不妊治療					
* 筆記試験 (1時間:45分)					
評価方法					
筆記試験(100%) 60点以上を合格とする。					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」 医学書院					
参考文献					
「病気がみえる vol.10 産科」 メディックメディア					

【専門分野】		必須科目																																								
科目名		開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																																						
母性看護学援助論Ⅰ		4セメスター	1単位	15時間／8回																																						
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数																																						
	宇野 三奈子 (実務経験 有)			時間／回																																						
事前学習内容	母性看護学特論、母性看護治療論の学習内容を想起する。 学習進度に沿って教科書の内容の予習をする。																																									
科目概要・目的	妊娠期・分娩期の看護に必要な知識・技術・態度を習得するため、妊婦・産婦・胎児のアセスメントに必要な知識を学び、安心・安全な看護を提供するための基本的な看護技術を習得する。																																									
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。																																									
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>Ⅰ 妊娠期の看護</td><td style="text-align: right;">講義</td></tr> <tr> <td>1. 妊婦のアセスメント</td><td></td></tr> <tr> <td> 1)身体的側面 (体格・既往歴・妊娠経過等)</td><td></td></tr> <tr> <td> 2)精神的・社会的側面 (不安・勤労・家族等の状態)</td><td></td></tr> <tr> <td>2. 妊婦の保健指導</td><td style="text-align: right;">講義</td></tr> <tr> <td> 1)体重コントロール・栄養・動静等</td><td></td></tr> <tr> <td> 2)分娩・育児の準備</td><td></td></tr> <tr> <td> 3)新たな家族関係の調整</td><td></td></tr> <tr> <td>3. ハイリスク妊婦の看護</td><td style="text-align: right;">講義</td></tr> <tr> <td> 1)妊娠悪阻、切迫流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等</td><td></td></tr> <tr> <td> 2)若年妊婦、多胎、社会的ハイリスク妊娠</td><td></td></tr> <tr> <td>4. 妊娠期の看護技術 (計測、レオポルド触診法、児心音聴取等)</td><td style="text-align: right;">学内実習</td></tr> <tr> <td>Ⅱ 分娩期の看護</td><td style="text-align: right;">講義</td></tr> <tr> <td>1. 産婦のアセスメントと看護</td><td></td></tr> <tr> <td> 1)分娩経過に伴う身体的变化 (VS、産痛、基本的ニード等)</td><td></td></tr> <tr> <td> 2)産痛緩和、精神的支援、基本的ニードに関する看護</td><td></td></tr> <tr> <td>2. ハイリスク産婦の看護</td><td style="text-align: right;">講義</td></tr> <tr> <td> 1)微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、骨盤位、常位胎盤早期剥離、DIC等</td><td></td></tr> <tr> <td>3. 分娩期の看護技術 (呼吸法、マッサージ、フリースタイル分娩等)</td><td style="text-align: right;">学内実習</td></tr> </table>				Ⅰ 妊娠期の看護	講義	1. 妊婦のアセスメント		1)身体的側面 (体格・既往歴・妊娠経過等)		2)精神的・社会的側面 (不安・勤労・家族等の状態)		2. 妊婦の保健指導	講義	1)体重コントロール・栄養・動静等		2)分娩・育児の準備		3)新たな家族関係の調整		3. ハイリスク妊婦の看護	講義	1)妊娠悪阻、切迫流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等		2)若年妊婦、多胎、社会的ハイリスク妊娠		4. 妊娠期の看護技術 (計測、レオポルド触診法、児心音聴取等)	学内実習	Ⅱ 分娩期の看護	講義	1. 産婦のアセスメントと看護		1)分娩経過に伴う身体的变化 (VS、産痛、基本的ニード等)		2)産痛緩和、精神的支援、基本的ニードに関する看護		2. ハイリスク産婦の看護	講義	1)微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、骨盤位、常位胎盤早期剥離、DIC等		3. 分娩期の看護技術 (呼吸法、マッサージ、フリースタイル分娩等)	学内実習
Ⅰ 妊娠期の看護	講義																																									
1. 妊婦のアセスメント																																										
1)身体的側面 (体格・既往歴・妊娠経過等)																																										
2)精神的・社会的側面 (不安・勤労・家族等の状態)																																										
2. 妊婦の保健指導	講義																																									
1)体重コントロール・栄養・動静等																																										
2)分娩・育児の準備																																										
3)新たな家族関係の調整																																										
3. ハイリスク妊婦の看護	講義																																									
1)妊娠悪阻、切迫流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等																																										
2)若年妊婦、多胎、社会的ハイリスク妊娠																																										
4. 妊娠期の看護技術 (計測、レオポルド触診法、児心音聴取等)	学内実習																																									
Ⅱ 分娩期の看護	講義																																									
1. 産婦のアセスメントと看護																																										
1)分娩経過に伴う身体的变化 (VS、産痛、基本的ニード等)																																										
2)産痛緩和、精神的支援、基本的ニードに関する看護																																										
2. ハイリスク産婦の看護	講義																																									
1)微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、骨盤位、常位胎盤早期剥離、DIC等																																										
3. 分娩期の看護技術 (呼吸法、マッサージ、フリースタイル分娩等)	学内実習																																									
*筆記試験 (1時間:45分)																																										
評価方法	筆記試験(80%) + 小テスト・提出課題状況(20%) 60点以上を合格とする。																																									
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」医学書院																																									
参考文献	「病気がみえる vol.10 産科」 メディックメディア																																									

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
母性看護学援助論 II	4 セメスター	1 単位	30 時間／ 15 回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	宇野 三奈子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
母性看護学特論、母性看護学治療論、母性看護学援助論 I の学習内容を想起する。 学習進度に沿って教科書の内容の予習をする。					
科目概要・目的					
産褥期・新生児期の看護に必要な知識・技術・態度を習得するため、褥婦・新生児のアセスメントに必要な知識を学び、安心・安全な看護を提供するための基本的な看護技術を習得する。さらに女性特有の生殖器疾患の看護の特徴を学ぶ。					
D Pとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
I 産褥期の看護	講義	2. ハイリスク新生児の看護	講義		
1. 褥婦のアセスメント 1)身体的側面（退行性変化・進行性変化等） 2)精神的・社会的側面		1)早産児、低血糖、高ビリルビン血症等			
3. 新生児期の看護技術 (新生児のフィジカルアセスメント、沐浴等)		3. 新生児期の看護技術 (新生児のフィジカルアセスメント、沐浴等)	学内実習		
2. 褥婦の看護 1)子宮復古を促す看護 2)母乳育児の支援 3)育児技術獲得の支援	講義	III 看護過程 1. 褥婦の事例を用いた看護過程の展開	講義-演習		
3. ハイリスク褥婦の看護 1)子宮復古不全、乳房トラブル、貧血 2)産後うつ、社会的ハイリスク妊娠	講義	IV 女性生殖器疾患の看護 1. 女性生殖器疾患の特徴 2. 治療に伴う看護（手術療法・化学療法等）	講義		
4. 産褥期の看護技術 (褥婦のフィジカルアセスメント、授乳介助等)		学内実習 * 筆記試験 (1時間:45分)			
II 新生児期の看護					
1. 新生児のアセスメントと看護 1)出生直後（アプガースコアの判定、保温、呼吸の助成等） 2)早期新生児期（生理的体重減少、生理的黄疸、授乳、沐浴等）	講義				
評価方法					
筆記試験(80%) + 小テスト・提出課題状況(20%) 60点以上を合格とする。					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器」 医学書院					
参考文献					
「病気がみえる vol.10 産科」 メディックメディア					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																																						
精神看護学特論	3セメスター	1単位	30時間／15回																																						
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数																																							
	正木 康子 (実務経験 有)	時間／回																																							
事前学習内容	<p>こころのしくみと行動の内容を想起し、精神障がいをどのように捉えているか、考えをまとめておく。</p> <p>進度に合わせて教科書を読んでおく。</p>																																								
科目概要・目的	<p>人は誰でもこころの健康問題をもつ可能性があり、精神看護が担う役割は大きい。そこで本科目では、こころの働きや発達の過程、精神保健医療福祉システムについて学び、精神障がいがこころの健康問題から生じる健康の一つの局面であると理解する。</p>																																								
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>																																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1.精神看護学の概念</td><td>6.看護倫理と人権擁護</td></tr> <tr> <td>1) 精神看護学とは何か</td><td>1) 精神看護と倫理</td></tr> <tr> <td>2) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護</td><td></td></tr> <tr> <td>3) 精神看護の役割と機能</td><td></td></tr> <tr> <td>2.こころの健康</td><td>7.地域におけるケアと支援</td></tr> <tr> <td>1) 精神の健康とは</td><td>1) 地域における生活支援の方法</td></tr> <tr> <td>2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響</td><td>2) 学校におけるメンタルヘルスと看護</td></tr> <tr> <td>3) 心的外傷（トラウマ）と回復</td><td>3) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護</td></tr> <tr> <td>4) 精神障害という捉え方</td><td></td></tr> <tr> <td>3.ライフサイクルとこころの発達</td><td>8.災害時のメンタルヘルスと看護</td></tr> <tr> <td>1) 心のはたらき</td><td>1) 災害時における心のケア</td></tr> <tr> <td>2) 心のしくみと人格の発達</td><td>2) 支援者のメンタルヘルスとケア</td></tr> <tr> <td>4.現代社会とこころ</td><td>9.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス</td></tr> <tr> <td>1) システムとしての人間関係</td><td>1) 感情労働としての看護</td></tr> <tr> <td>2) 全体としての家族</td><td>2) 看護師のストレスマネジメント</td></tr> <tr> <td>3) 人間と集団</td><td>3) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護</td></tr> <tr> <td>5.精神医療・保健・福祉の変遷と今後の展望</td><td>※筆記試験（1時間：45分）</td></tr> <tr> <td>1) 精神障害と歴史的変遷</td><td></td></tr> <tr> <td>2) 精神障害と法制度</td><td></td></tr> </table>			1.精神看護学の概念	6.看護倫理と人権擁護	1) 精神看護学とは何か	1) 精神看護と倫理	2) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護		3) 精神看護の役割と機能		2.こころの健康	7.地域におけるケアと支援	1) 精神の健康とは	1) 地域における生活支援の方法	2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響	2) 学校におけるメンタルヘルスと看護	3) 心的外傷（トラウマ）と回復	3) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	4) 精神障害という捉え方		3.ライフサイクルとこころの発達	8.災害時のメンタルヘルスと看護	1) 心のはたらき	1) 災害時における心のケア	2) 心のしくみと人格の発達	2) 支援者のメンタルヘルスとケア	4.現代社会とこころ	9.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1) システムとしての人間関係	1) 感情労働としての看護	2) 全体としての家族	2) 看護師のストレスマネジメント	3) 人間と集団	3) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	5.精神医療・保健・福祉の変遷と今後の展望	※筆記試験（1時間：45分）	1) 精神障害と歴史的変遷		2) 精神障害と法制度	
1.精神看護学の概念	6.看護倫理と人権擁護																																								
1) 精神看護学とは何か	1) 精神看護と倫理																																								
2) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護																																									
3) 精神看護の役割と機能																																									
2.こころの健康	7.地域におけるケアと支援																																								
1) 精神の健康とは	1) 地域における生活支援の方法																																								
2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響	2) 学校におけるメンタルヘルスと看護																																								
3) 心的外傷（トラウマ）と回復	3) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護																																								
4) 精神障害という捉え方																																									
3.ライフサイクルとこころの発達	8.災害時のメンタルヘルスと看護																																								
1) 心のはたらき	1) 災害時における心のケア																																								
2) 心のしくみと人格の発達	2) 支援者のメンタルヘルスとケア																																								
4.現代社会とこころ	9.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス																																								
1) システムとしての人間関係	1) 感情労働としての看護																																								
2) 全体としての家族	2) 看護師のストレスマネジメント																																								
3) 人間と集団	3) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護																																								
5.精神医療・保健・福祉の変遷と今後の展望	※筆記試験（1時間：45分）																																								
1) 精神障害と歴史的変遷																																									
2) 精神障害と法制度																																									
評価方法	<p>筆記試験(90%)+レポート課題(10%) 合計60点以上を合格とする。 ※再試験はその限りではない。</p>																																								
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」 医学書院</p>																																								
参考文献																																									

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数					
精神看護治療論	4セメスター	1単位	15時間／8回					
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数					
	青木 治亮 (実務経験 有)	時間／回						
事前学習内容								
精神看護学特論で学んだ精神看護における倫理や社会の動向(精神保健の変遷、疾病構造の変化)を復習しておく。								
科目概要・目的								
精神疾患は経過や症状が多様であり、原因が特定されていないものが多い。そこで本科目では、精神疾患をもつ患者を適切にアセスメントし、生活のしづらさを改善する援助に繋げるため、治療の変遷、主な精神疾患の症状や治療を学ぶ。								
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する								
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。								
授業計画								
1.精神障害の理解 1) 精神医療の歴史 2) 精神疾患の捉え方 3) 精神障害の原因・分類								
2.主な精神障害の診断・治療 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 神経症と心因性精神病 4) 人格障害 5) 物質依存(アルコール依存と薬物依存) 6) 認知症								
3.司法と精神医学								
※筆記試験(1時間:45分)								
評価方法								
筆記試験(80%)+提出課題(10%)+出席点(10%) 合計60点以上を合格とする。 ※再試験はその限りではない。								
使用テキスト								
「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」 医学書院								
参考文献								

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
精神看護学援助論	4セメスター	2 単位	30 時間／15 回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	正木 康子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
精神疾患の症状、治療など、精神看護学治療論の内容を復習しておく。 精神看護学特論で学んだ現代社会の特徴と精神疾患との関連を復習していく。					
科目概要・目的					
多様な経過や症状が現れる精神疾患の知識を踏まえ、ひとりの人（生活者）として対象理解が深められるよう生活への影響を学ぶ。また、社会生活に適応し、その人らしい生活が送れるよう支援するため、看護の思考過程に基づき、基礎的な精神看護技術や臨床判断を学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
1.精神障害の理解と看護 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 神経症性障害/ストレス関連障害 4) 物質依存（アルコール依存症） 5) てんかん 6) 知的能力障害/発達障害 7) 摂食障害 8) パーソナリティ障害	5.精神看護の基本的技術 1) 精神症状の見方 (MSE) 2) ケアの前提と原則 3) コミュニケーション技術とプロセスレコード	6.精神障害をもつ患者の看護 1)統合失調症の事例を用いた看護の思考過程(演習)			
2.治療に伴う援助 1) 薬物療法を受ける患者の援助 2) 精神療法 3) 電気けいれん療法 4) 社会療法	※筆記試験（1時間：45分）				
3.地域におけるケアと支援 1) 地域生活を支えるシステムと社会資源					
4.精神科とリスクマネジメント 1) 行動制限と倫理課題 2) 入院治療と危険物					
評価方法					
筆記試験(90%)+レポート課題(10%) 合計60点以上を合格とする。 ※再試験はその限りではない。					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」 医学書院					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
看護マネジメント I	5セメスター	1単位	15時間／8回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	高嶋 愛里 (実務経験 有)		時間／回
事前学習内容	学習進度に応じて授業までにテキストを読んでおく。		
科目概要・目的	グローバル化社会に伴い生活圏や医療現場において外国人と接することが日常となっている現在、国際看護の重要性はますます高まっている。そのため多様な文化、政治・経済、教育などの現状を視野に入れ、健康課題や看護問題について学ぶ。また、外国籍の地域住民との交流を通して、地域における国際看護活動について考える。		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。		
授業計画	<p>1. 国際看護の概要 講義 1) 国際看護の概念・目的 2) 国際社会における日本の役割と看護</p> <p>2. 異文化理解と国際協力 講義・演習 1) 保健医療分野における国際機関 2) 国の国際協力活動と国内外のNGOによる活動 3) 国際医療</p> <p>3. 国際看護活動を必要とする対象と看護活動の実際 講義・演習 1) 海外における看護活動と在日外国人への看護活動</p> <p>4. 異文化理解と国際看護活動 講義・演習 1) 文化的・宗教的背景の理解 2) 文化を考慮した看護</p> <p>5. 地域における国際看護 講義・演習 1) 地域の在日外国人の現状 2) 外国籍の地域住民との交流</p> <p>セッション 甲賀市国際交流協会 外部ゲスト 学内教員</p>		
評価方法	終講時レポート (90%) 国際交流会参加レポート (10%) ループリック評価を用いる		
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学」 医学書院		
参考文献	授業で紹介する		

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
看護マネジメントII	5セメスター	1単位	15時間／8回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	奥田 純次 (実務経験 有)		4時間／2回
	森地 加織 (実務経験 有)		11時間／6回
事前学習内容	地域のハザードマップや近年の災害について調べておく。		
科目概要・目的	自然災害が頻発する現代社会において災害時派遣チームの活動は大きな期待が寄せられる。本科目では、災害が人々の生活や健康へ及ぼす影響を理解し、社会における看護の役割を果たすために必要な災害時の看護活動について学ぶ。また、災害に対する危機感、防災・減災への意識を高め、災害に備える看護の視点を学ぶ。		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。		
授業計画	<p>1. 災害時における看護の役割と看護支援活動 講義・演習 外部講師 1)災害看護の基本と看護の役割、災害時トリアージの基本</p> <p>2. 災害および災害看護に関する基礎的知識 講義・演習 学内教員 1)災害看護の定義、災害サイクル、災害に関する理論 2)災害種類別・対象者別による特徴</p> <p>3. 災害発生時の社会の対応やしくみ、個人の備え 講義・演習 外部講師 1)災害に関連する法律・制度、国際的支援のしくみ 2)災害関係機関の支援体制、災害ボランティア</p> <p>4. 災害が人々の生命や暮らしに及ぼす影響 講義・演習 学内教員 1)災害種類別疾患の特徴 2)災害時の心理</p> <p>5. 地域に暮らす災害時要援護者への支援を考える 講義 学内教員 1)要支援者への支援の実際 ・学習した内容を統合しロールプレイから看護を考える</p>		
*筆記試験（1時間：45分）			
評価方法			
使用テキスト	筆記試験(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。		
参考文献	「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学」 医学書院 授業で紹介する		

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数	
看護マネジメントⅢ	6セメスター	1単位	15時間／8回	
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数		
		古川 晶子 (実務経験 有)	8時間／4回	
		廣瀬 京子 (実務経験 有)	4時間／2回	
		中尾 裕子 (実務経験 有)	3時間／2回	
事前学習内容	医療安全、チーム医療、セルフマネジメントについて学習内容を想起する。			
科目概要・目的	療養の場が拡大する中、看護職は高齢化や重症化のケアニーズに対応し、人々の尊厳を守り専門職としての責任を果たす必要がある。そこで、看護の質の向上と保証のために看護をマネジメントし、最善の看護について考える。また、看護提供システムや看護体制、リーダーシップ・メンバーシップにおける自己の役割を明確にし、看護師としての成長（キャリア形成）を見通す力を身につける。			
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(7)専門職として新たな知識や技術を学び続け、対象にとって最善の看護を探究できる。			
授業計画	<p>1. 看護管理の基本となるもの 1) 看護管理とは 2) 看護管理の基本的要素 3) 看護のマネジメントが行われる場（地域包括ケアシステム） 4) 看護活動を取り巻く法律・制度の変遷</p> <p>2. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 医療における安全管理 4) チーム医療（多職種連携、協働）</p> <p>3. 看護サービスのマネジメント 1) 組織としてのマネジメント (1)人材育成と人財活用 (2)備品施設のモノの管理とコスト管理 (3)情報の管理 2) 医療機能の評価</p> <p>4. 看護の質向上への取り組み（マネジメントに必要な知識と技術） 1) 組織とマネジメント（マネジメントサイクル） 2) 看護職と専門職性 3) 看護職の職業倫理</p> <p>5. 看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成 2) 人と関わるスキルと集団に働きかけるスキル 3) タイムマネジメント 4) ストレスマネジメント</p>			講義
			* 筆記試験(1時間：45分)	
評価方法	筆記試験(100%) 60%以上を合格とする。			
使用テキスト	「系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践①」 医学書院			
参考文献	授業で紹介する			

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数																					
医療と安全Ⅰ	2セメスター	1単位	15時間／8回																					
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数																					
	森田 保 (実務経験 有)		4時間／2回																					
	森地 加織 (実務経験 有)		11時間／6回																					
事前学習内容	<p>医療事故に関する事例やニュースを調べる。 基礎看護学特論Ⅰ、基礎看護学援助論Ⅰの安全に関する学習内容を復習しておく。 基礎看護学実習Ⅰのヒヤリハットを振り返っておく。</p>																							
科目概要・目的	<p>医療の質を保証し看護の質を向上させることは必要不可欠であり、そのためにも医療安全文化の醸成は重要となる。安全の意義や歴史的背景、安全を脅かす諸因子と事故発生のメカニズムについて理解し、医療安全を確保するための基本的な考え方を学ぶ。また、シミュレーション体験を通して、自己の特性や傾向を知る。</p>																							
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(5)医療安全の向上に取り組み、看護の対象に良質で安全なケアを継続的にマネジメントできる。</p>																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 医療安全の概念 1)医療安全とは 2)医療事故の種類 3)医療事故の動向 4)ハインリッヒの法則</td><td>講義</td><td>外部講師</td></tr> <tr> <td>2. 人間はミスを犯す存在である 1)私の特性 2)人間の特性</td><td>講義・演習</td><td>学内教員</td></tr> <tr> <td>3. なぜ人間はエラーを犯すのか 1)ヒューマンエラーのメカニズム 2)ルールを守らないこととリスク</td><td>講義</td><td>学内教員</td></tr> <tr> <td>4. 人が犯すエラーを防ぐ方法 1)アフォーダンスによる事故予防の仕掛け 2)スイス・チーズモデルの視点とシステム改善 3)メタ認知と自己モニタリング</td><td>講義・演習</td><td>外部講師</td></tr> <tr> <td>5. 職業倫理（安全教育指導指針）</td><td>講義・演習</td><td>学内教員</td></tr> <tr> <td>6. 安全教育シミュレーション体験（6時間）</td><td></td><td>学内教員</td></tr> <tr> <td colspan="3">*筆記試験（1時間：45分）</td></tr> </table>			1. 医療安全の概念 1)医療安全とは 2)医療事故の種類 3)医療事故の動向 4)ハインリッヒの法則	講義	外部講師	2. 人間はミスを犯す存在である 1)私の特性 2)人間の特性	講義・演習	学内教員	3. なぜ人間はエラーを犯すのか 1)ヒューマンエラーのメカニズム 2)ルールを守らないこととリスク	講義	学内教員	4. 人が犯すエラーを防ぐ方法 1)アフォーダンスによる事故予防の仕掛け 2)スイス・チーズモデルの視点とシステム改善 3)メタ認知と自己モニタリング	講義・演習	外部講師	5. 職業倫理（安全教育指導指針）	講義・演習	学内教員	6. 安全教育シミュレーション体験（6時間）		学内教員	*筆記試験（1時間：45分）		
1. 医療安全の概念 1)医療安全とは 2)医療事故の種類 3)医療事故の動向 4)ハインリッヒの法則	講義	外部講師																						
2. 人間はミスを犯す存在である 1)私の特性 2)人間の特性	講義・演習	学内教員																						
3. なぜ人間はエラーを犯すのか 1)ヒューマンエラーのメカニズム 2)ルールを守らないこととリスク	講義	学内教員																						
4. 人が犯すエラーを防ぐ方法 1)アフォーダンスによる事故予防の仕掛け 2)スイス・チーズモデルの視点とシステム改善 3)メタ認知と自己モニタリング	講義・演習	外部講師																						
5. 職業倫理（安全教育指導指針）	講義・演習	学内教員																						
6. 安全教育シミュレーション体験（6時間）		学内教員																						
*筆記試験（1時間：45分）																								
評価方法	<p>筆記試験（100%）</p>																							
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全」 医学書院 「医療安全ワークブック」 医学書院 「甲賀看護専門学校医療安全確認ツール(授業の中で配布する)</p>																							
参考文献	<p>「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院</p>																							

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
医療と安全 II	4セメスター	1単位	15時間／8回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	森地 加織 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
医療と安全 Iで学習した内容の想起しておく。 これまでの実習でのヒヤリハットを振り返っておく。					
科目概要・目的					
危険を予測し、対象の安全・安楽を思考する力は、医療の安全と看護の質を向上させるために必要不可欠である。そのため、医療と安全 Iで学習した知識を活用し、危険回避に必要な判断を学ぶ。また、シミュレーション体験を通して、状況を即座に判断し、事故防止のための対処行動を学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(5)医療安全の向上に取り組み、看護の対象に良質で安全なケアを継続的にマネジメントできる。					
授業計画					
1. 危険の予測 1) 危険予知トレーニング	講義・演習				
2. 事故要因と事故分析 1) 患者の要因 2) 看護師の要因 3) 具体的な事故分析手法 (SHEL、4M-4E、RCAなど)	講義・演習				
3. 事例検討 1) 背後要因の抽出 2) 危険回避の対策 (1)一連の行為を分断しない (2)確認の実施 (6R) (3)危険回避のためのコミュニケーション (4)危険を回避するための自己コミュニケーション	講義・演習				
4. 安全教育シミュレーション体験 (6時間) *筆記試験 (1時間：45分)					
評価方法					
筆記試験 (100%)					
使用テキスト					
「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全」 医学書院 「医療安全ワークブック」 医学書院 甲賀看護専門学校医療安全確認ツール(1年次に配布)					
参考文献					
「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
医療と安全Ⅲ	5セメスター	1単位	15時間／8回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	森地 加織 (実務経験 有)		時間／回
事前学習内容	医療と安全Ⅰ・Ⅱで学習した内容の想起しておく これまでの実習で経験したヒヤリハット、およびヒヤリハット学習会の事例を振り返り、原因と対策を再学習しておく。		
科目概要・目的	医療安全には「物事が悪い方へ向かうのを避ける」Safety-Iの考え方だけでなく、「物事が正しい方へと向かうことを保証する」Safety-IIの考えが重要となる。本科目では、医療と安全Ⅰ・Ⅱで学習した知識を活用し、事故分析に関する方法を学び、危険なものを安全なものに変えるという認識を身につける。また、レジリエンス(弾力性)のあるシステム作りの観点から、安全の復元と持続について学ぶ。さらに、シミュレーション体験を通して、状況を即座に判断し、事故防止のための対処行動を学ぶ。		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(5)医療安全の向上に取り組み、看護の対象に良質で安全なケアを継続的にマネジメントできる。		
授業計画	<p>1. 看護実践における危険回避と安全の復元・持続 講義・演習 1) Safety-I と Safety-II 2) レジリエンス(弾力性)のあるシステム 3) 事例検討(RCA、Safety-II)</p> <p>2. 安全を保証する組織 講義 1) 職業倫理と法的責任 2) システムとチームの役割</p> <p>3. 患者主体の医療安全 講義 1) 患者を守る行為の優先 2) 自己決定の支援</p> <p>4. 安全教育シミュレーション体験 (6時間)</p> <p>* 筆記試験 (1時間: 45分) 事故分析シートの作成</p>		
評価方法	筆記試験 (100%)		
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全」 医学書院 「医療安全ワークブック」 医学書院 甲賀看護専門学校医療安全確認ツール(1年次に配布)		
参考文献	「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院		

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
基礎看護学実習Ⅰ	1セメスター	1単位	45時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	林 カオリ (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
別途提示 技術（リネン交換）に関しては、担当教員の承認を得る。					
科目概要・目的					
多様な場における対象の療養環境を捉え、疾病や障害に伴う変化や生活リズムに合わせた安全・安楽な療養生活を支える看護を実践する。また、地域で生活する人々とその家族の暮らしの場で行われる看護を知り、地域・病院における切れ目のない看護を学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。					
授業計画					
<目標>					
1.多様な場において対象の状態に応じた安心、安全をもたらすコミュニケーション・環境調整ができる。 2.対象は常に変化しながら暮らしを続けていることが理解できる。 3.保健・医療・福祉チームの一員としての基本的態度を身につけることができる。 4.対象の命や暮らしを守る看護を通して自己の看護観を深めることができる。					
<展開方法>					
病棟 4日間 1.療養生活に支援の必要な患者を1名受け持つ。 2.学内で学んだコミュニケーション技術を用い対象との効果的なコミュニケーションを実践する。 3.看護師が行う療養上必要となる日常生活援助場面に同行し援助に参加する。 4.臨床の場での看護師の判断や行動の根拠に触れ援助の意味を考える。 (実施記録・プロセスレコード・学びのノート・ポートフォリオを用いる。)					
訪問看護 1日間 1.一日を通して、居宅を訪問する看護師に同行する。 2.人と暮らしおよび生活の場で実践される看護を見学し対象の暮らし、健康の維持・回復を支える看護について考える。 (学びのノート・ポートフォリオを用いる。)					
<実習場所>					
公立甲賀病院 2階西病棟・3階西病棟・3階東病棟・4階西病棟 4階東病棟・5階西病棟・5階東病棟					
<訪問看護ステーション>					
公立甲賀病院訪問看護ステーション こうせい訪問看護ステーション・訪問看護ステーションつむぎ 湖南市訪問看護ステーション・訪問看護ステーションすばる ぼだいじ訪問看護ステーション・甲南病院訪問看護ステーション					
評価方法					
評価表に基づき評価する。					
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
基礎看護学実習 II	2セメスター	2単位	90時間／回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	正木 康子 (実務経験 有)		時間／回
事前学習内容			
別途提示 技術（清拭・陰部洗浄・洗髪・足浴）に関しては、担当教員の承認を得る。			
科目概要・目的			
対象のニードや思い（療養生活上の苦痛・羞恥心・退院後の生活に対する不安等）に関心を寄せて看護を思考する意義について学ぶ。また、看護目標に向かい実践されている看護の根拠を理解し、療養生活を支える看護を実践する。			
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する			
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。			
授業計画			
<目標>			
1.健康障害がある対象の状況を捉え、療養生活の援助が実践できる。 2.看護目標の達成に向かい実践されている看護の根拠がわかる。 3.フィジカルアセスメントを活用し科学的思考に基づいた看護が実践できる。 4.対象の暮らしを持続させるための看護の役割と保健・医療・福祉における連携がわかる。 5.看護学生としての責務を果たし、医療チームの一員である自覚を持ち行動できる。 6.医療チームの一員として療養上の生活を支援する看護を通して自己の看護観を深めることができる。			
〈展開方法〉			
病棟 11日間 1. 療養生活に支援の必要な患者を1名受け持つ。 2. 学内で学んだ技術を用い対象に応じたフィジカルアセスメントを実践する。 3. 実習期間を通して安全・安楽・自立を考慮した療養上必要となる日常生活援助を実施する。 4. 看護師が実践する診療の補助技術に参加する。 (受け持ち患者記録Ⅰ・Ⅱ・看護計画・実習記録・学びのノート・ポートフォリオを用いる。)			
〈実習場所〉			
公立甲賀病院 2階西病棟・2階東病棟・3階西病棟・4階西病棟 4階東病棟・5階西病棟・5階東病棟			
評価方法			
評価表に基づき評価する。			
使用テキスト			
参考文献			

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
地域・在宅看護論実習Ⅰ	3セメスター	2単位	90時間／回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
窪田 祥子 (実務経験 有)		時間	／回
事前学習内容	別途提示		
科目概要・目的	<p>療養の場の拡大に伴い、看護師には地域・在宅における多様な場での看護を実践する力が求められる。そこで本科目では、疾病や障害のある対象とその家族を生活者として捉え、多様な場での看護の役割や多職種の連携・協働についての理解を深める。また、地域で実践されているその人らしい暮らしの支援を学ぶ。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や障害のある対象と家族を生活者として理解し、地域での暮らしを持続するための看護が実践できる。 2. 対象の状態・状況を判断し、必要な看護が実践できる。 3. その人らしい暮らしを支援するための保健・医療・福祉・教育の連携を理解し、チームの一員として行動できる。 4. 人々の暮らしを地域で支えるための看護を通して、自己の看護観を深めることができる。 <p><実習展開></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人保健施設または介護老人福祉施設で認知症のある対象を1名受け持ち、コミュニケーションや日常生活援助を実践する。 2. デイサービスもしくはデイケアで利用者とのコミュニケーションや日常生活援助を実践する。 3. グループホームで利用者とのコミュニケーションや日常生活の支援を体験する。 4. 放課後デイサービス、もしくは障がい者通所施設で医療処置を必要とする対象の看護に携わる。 5. 障害のある対象の地域での暮らしを支えるボランティア活動などに関わる。 <p><実習場所></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人保健施設・介護老人福祉施設 2. グループホーム など 3. 障がい者支援センター・放課後デイサービス 4. 水口社会福祉センター など 		
評価方法	評価表に基づき評価する。		
使用テキスト			
参考文献			

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
地域・在宅看護論実習Ⅱ	5・6 セメスター	2 単位	90 時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
飯田 めぐみ (実務経験 有) 時間／回					
事前学習内容 地域包括ケアシステム、社会資源、介護保険と医療保険、地域連携・退院調整の役割					
科目概要・目的 人は様々な健康課題を抱えながらも、住み慣れた地域で暮らし続けたいと願う。多様化する療養の場で、暮らしや生き方を尊重した支援が求められている。 本科目では、障害や疾患をもちながら地域で療養する人々とその家族を統合的に捉え、健康の保持・増進・回復や暮らしの持続を支える在宅看護を学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける支援の実際から、多職種連携を学び、看護の役割を理解する。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画 <目標> 1.在宅療養者及び家族の暮らしと健康状態が理解できる。 2.在宅療養者の暮らしを持続させるための看護が実践できる。 3.地域で生活している人々の健康の保持・増進・疾病予防のための連携と調整を踏まえ、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解できる。 4.在宅療養者とその家族を尊重し、倫理的判断に基づいた行動がとれる。 5.その人らしい暮らしを支えるために地域で実践する看護を通して、自己の看護観を深めることができる。 <展開方法> 1.保健センター・地域包括支援センター：3日間 1) 保健事業及び支援事業に参加（見学）をする。 2.訪問看護ステーション：5.5日間 1) 看護師と共に訪問看護を行い、援助に参加しながら対象の情報収集及び全体像の把握を行う。 2) 様々な療養者の訪問看護に同行し、個々の暮らしに応じた支援や看護を学ぶ。 4. 地域・在宅看護マネジメント 地域・看護マネジメントとは 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 1) 地域連携業務や関連部署の見学を通して地域連携の実際を理解する。 <実習場所> 保健センター・地域包括支援センター(甲賀市、湖南市) 公立甲賀病院（訪問看護ステーション、地域連携部） 生田病院（こうせい訪問看護ステーション、地域連携室） アサヒサンクリーン在宅介護センター甲賀					
評価方法 ルーブリック評価表に基づき評価する。					
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
成人・老年看護学実習Ⅰ	4セメスター	2単位	90時間／回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	中橋 優子 (実務経験 有)		時間／回
事前学習内容	別途提示		
科目概要・目的	<p>多様な生活背景をもつ人々が地域で暮らし続けるためには、個人が持つ力(自助力)を高める必要がある。看護には、健康問題への対応や地域での暮らしを持続させるための支援が求められる。そこで本科目は、成人期から老年期にあり、疾患や障害によってこれまでの暮らしが困難となった対象のセルフケア能力を高める支援を学ぶ。対象の健康レベルや加齢に伴う変化、二次的障害を科学的思考に基づき理解し、対象の強みを活かした健康の保持・増進を図り、暮らしを持続するための看護を習得する。</p>		
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>		
授業計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患や障害によってこれまでの暮らしが困難となった対象を統合的に理解し、セルフケア能力を高めるための療養上の生活援助が実践できる。 2. 科学的思考に基づき対象の健康レベルに応じた個別性のある看護が実践できる。 3. その人らしい暮らしを持続するために、看護職の役割を考え医療チームの一員として行動できる。 4. 成人期から老年期にある対象の看護を通して、自己の看護観を深めることができる。 <p><展開方法></p> <p>病棟 11日間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期から老年期にあり、疾患や障害によってこれまでの暮らしが困難となった対象を1名受け持つ。 2. 科学的思考に基づき対象理解を深める。 3. 安全・安楽、自立性、個別性を考慮した看護計画を立案し実践する。 4. 対象の状態や反応を観察しながら臨床判断を行い、より良い援助を実践する。また、看護計画の評価・修正を行う。 <p>実習場所</p> <p>公立甲賀病院 3階東病棟、4階西病棟、4階東病棟、5階西病棟、5階東病棟 独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 2階病棟、3階病棟</p>		
評価方法	評価表に基づき評価する。		
使用テキスト			
参考文献			

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
成人・老年看護学実習Ⅱ	5・6 セメスター	2 単位	90 時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	北川 敦子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
別途掲示					
科目概要・目的					
<p>人が病気や障害により健康の急激な破綻を来すと生命の維持が困難となる。そこで本科目は、健康の急激な破綻を來した対象の自然治癒力を高め、回復を促進する看護を学ぶ実習とする。また、対象の苦悩や苦痛を理解し、倫理的配慮のある看護を実践する。そして、生活の再構築を支援する多職種の連携・協働を学び、看護師の役割を理解する。</p>					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>					
授業計画					
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象を統合的に理解し、回復を促進する看護が実践できる。 健康の急激な破綻を來した対象の生命の維持と苦痛緩和のため看護が実践できる。 機能を低下・喪失した対象が暮らしを持続するために必要な多職種の連携・協働を理解する。 危機や苦痛が対象の生活に及ぼす影響を理解し、急性期の看護について自己の看護観を深めることができる。 					
<p><展開方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 実習期間：病棟実習 11日間 全身麻酔下の手術によって生体侵襲を受ける対象を受け持ち、対象の持つ力を高める看護を実践する。 標準看護計画を活用し、対象の状態に応じた看護計画の追加・修正を行う。 対象の状態や反応を捉え、実施した援助から解決策を修正し、対象にとって安全・安楽な援助を行う。 <td data-kind="ghost"></td> <td data-kind="ghost"></td> <td data-kind="ghost"></td>					
<p><実習場所></p> <p>公立甲賀病院 3階東病棟・手術室・集中治療室</p> <td data-kind="ghost"></td> <td data-kind="ghost"></td> <td data-kind="ghost"></td>					
評価方法					
評価表に基づいて評価する。					
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
成人・老年看護学実習Ⅲ	5・6 セメスター	2 単位	90 時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数		
窪田 祥子 (実務経験 有)		時間／回			
事前学習内容					
別途提示					
科目概要・目標					
<p>人はいかなる健康状態にあっても住み慣れた地域で安全な暮らしを持続したいと望む。そのため看護師には入院時から退院後の暮らしを見据えた療養生活の支援が求められる。本科目では、科学的思考に基づき症状の持続によって生活機能が低下した対象を理解し、健康の回復とその人らしい暮らしを続けるための看護を習得する。また、治療と暮らしの場をつなぐ多職種連携の協働や調整を学ぶ。</p>					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
<目標>					
<ol style="list-style-type: none"> 対象を統合的に理解し、暮らしを持続するための看護が実践できる。 対象の状態・状況を判断し、変化に応じた援助が実践できる。 多職種連携における看護師の役割を認識し、医療チームの一員として行動できる。 症状を管理しながらその人らしい暮らしを持続するための看護を通して、自己の看護観を深めることができる。 					
<展開方法>					
病棟 11日間					
<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患のある生活機能が低下した成人期から老年期の対象を1名受け持つ。 看護過程を活用し、科学的思考に基づいて対象理解を深め、必要となる看護を導き出す。 対象の状態や反応を観察しながら臨床判断を行い、健康の回復や生活機能の維持・向上を目指した看護を実践する。 多職種のもつ情報を対象理解と看護実践に活用する。 					
<実習場所>					
公立甲賀病院 4階西病棟、4階東病棟、5階東病棟					
評価方法					
評価表に基づき評価する。					
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数			
小児看護学実習	5・6セメスター	2 単位	90 時間／回			
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数				
植野 ルミ (実務経験 有)		時間／回				
事前学習内容 別途提示						
科目概要・目的						
子どもの成長発達を捉えることは、発達段階や健康レベルに応じた看護、権利擁護を行ううえで重要である。また、子どもの心身の健康や成長発達には家庭環境による影響も大きいため、子どもと家族を捉え支援していく必要がある。本実習では、子どもの成長発達や障害をもつ子どもと家族の看護について理解し、健康障害のある子どもと家族の看護を通して、子どもの成長を促進する看護を学ぶ。さらに、小児期にある対象を総合的に理解し、発達段階、健康レベルに応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画						
<目標>						
1. 子どもと家族を総合的に理解し、健康レベルや発達段階に応じた看護が実践できる。 2. 科学的根拠に基づき、安全・安楽を考慮した個別性のある援助が実施できる。 3. 保健・医療・福祉・教育の連携における看護の役割を考え、医療チームの一員として行動できる。 4. 子どもの成長発達を促進する看護を通して、自己の看護観を深めることができる。						
<展開方法>						
1. 保育園実習 1)園の保育活動スケジュールに沿い、担当するクラスの保育活動に参加する。 2)担当クラスの幼児と関わり幼児の成長発達や生活習慣を観察する。 3)各年齢に応じた養護の実際を見学し発達段階に応じた生活の援助を一部実施する。						
2. 小児科病棟実習 1)受け持ち患児が決定次第、看護師とともに援助に参加しながら情報を収集し、患児の全体像を把握する。 2)病棟の看護計画に基づいて、援助の具体策を立案、実施し、援助の評価と具体策の修正を行う。 3)受け持ち患児がない期間は、機能別実習として別の対象で援助技術の見学や実施を行う。						
3. 重症心身障害児病棟実習 1)重症心身障害児の入院生活の環境を見学し、児にとって安全安楽な環境について考える。 2)児とのコミュニケーションや遊び、日常生活援助や養護学校での学習などを見学・実施する。 3)病棟の看護計画に基づいて、援助の具体策を立案、実施し、援助の評価と具体策の修正を行う。						
<実習場所>						
甲賀市あいみらい保育園、ここのっす園、甲賀市甲賀西保育園 公立甲賀病院2西病棟 独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 1階病棟						
評価方法						
評価表に基づき評価する。						
使用テキスト						
参考文献						

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
母性看護学実習	5・6 セメスター	2 単位	90 時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	宇野 三奈子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
別途提示					
科目概要・目的					
<p>妊娠・出産・育児は女性やその家族の生活や考え方には大きな影響を及ぼすライフイベントである。母性看護では対象の三側面にわたって看護介入の必要性をアセスメントし、セルフケア能力を伸ばしながら正常性を高める看護ができる能力が求められる。本科目では妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要となる知識・技術とともに、母性看護に必要な思いやりと高い倫理観を持つ態度を習得するために、臨地における母性看護実践を学ぶ。</p>					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
<目標>					
<ol style="list-style-type: none"> 1.母子相互作用を理解し、セルフケア能力を伸ばしながら母子の健康を促進するための看護が実践できる。 2.妊娠・分娩・産褥各期の母性および新生児の生理的変化と心理・社会的特徴について理解し、対象に応じた基本的な援助ができる。 3.保健・医療・福祉の連携における看護の役割を理解し、医療チームの一員として行動できる。 4.生命の尊厳や性の尊さに対する自己の考えを持ち、母性観・父性観を深める。 					
<展開方法> 病棟・外来 11日間					
<ol style="list-style-type: none"> 1.受け持ち可能な対象がいれば、褥婦と新生児1組を退院まで受け持つ。 2.産褥経過・新生児の経過に応じた看護を実施する。 3.褥婦に必要な保健指導を実施する。 4.可能であれば、経腔分娩または帝王切開分娩に立ち会い見学する。 5.受け持ちがない場合は、機能別看護を実施する。 6.産科外来にて妊婦健康診査及び産後1か月の褥婦の健康診査の診察・保健指導を見学する。 7.病棟におけるテーマ学習（胎盤の観察、分娩期の看護、出生直後の看護等）を行う。 					
<実習場所>					
公立甲賀病院 2階東病棟・産科外来					
評価方法					
評価表に基づき評価する。					
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】

必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
精神看護学実習	5・6 セメスター	2 単位	90 時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	正木 康子 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容	<p>精神医療と対象の生活を支える法律(精神保健福祉法・障害者総合支援法について) 精神看護学治療論・援助論での対象理解に必要な内容</p>				
科目概要・目的	<p>社会生活の中で精神障がいのある方と触れ合う機会は少ない。そのため、変化が目に見えない疾患や症状を具体的に捉えることは難しい。本実習では、患者と看護師のコミュニケーション、関係性の構築を土台に患者の状態を適切にアセスメント、生きづらさを理解したうえで、その人らしい生活を支える看護に必要な基礎的知識・態度・技術を習得する。</p>				
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	<p>DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。</p>				
授業計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 精神に障害のある対象、対象を取り巻く家族を統合的に理解し、強みを高め、社会生活への適応に向けた看護が実践できる。 治療的関係を構築し、患者を取り巻く状況を踏まえた安全・安楽な看護が実践できる。 対象の権利を尊重し、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考え、医療チームの一員として行動ができる。 その人らしい生活を支える看護を通して、自己の看護観を深めることができる。 <p><展開方法></p> <p>病棟10.5日・作業所0.5日</p> <ol style="list-style-type: none"> 病院の機能と病棟の特徴を知り、治療環境としての病院・病棟の特性を理解する。 精神障害をもつ慢性期の対象を1名受け持つ。 病棟の看護計画に基づいてコミュニケーションや治療場面に参加し、対象理解を深める。 対象の言動の意味を考えるとともに、自己の感情を顕在化させたり自己の傾向を自覚したりしながら関係性の構築に努める。 社会生活適応に向けた看護計画を立案し、援助の実施・評価・修正を行う。 社会復帰施設の見学を通じ、看護の役割や多職種連携の実際を学ぶ。 <p><実習場所></p> <p>実習病院:水口病院2M・3M・4M病棟 社会復帰施設: デイケア（水口病院内）、精神障害者生活訓練施設(援護寮)しろやま コミュニティーハウス 精神障害者地域生活支援センター：地域生活支援センターしろやま 精神障害者授産施設：社会福祉法人 わたむきの里福祉会作業所</p>				
評価方法	評価表に基づき評価を行う。				
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
健康支援実習	5・6セメスター	2 単位	90 時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	森地 加織 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容 別途提示					
科目概要・目的					
<p>入院期間の短縮や在宅ケアへの移行、疾病構造の変化により生涯にわたって疾患の管理や生活の調整が必要な対象が増加している。そのため、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する力が求められている。本科目では、あらゆる健康レベルにある対象が生活しながら必要な医療や療養ができるよう健康の保持増進をめざした健康支援について学ぶ。</p>					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画					
1. 目標					
<ul style="list-style-type: none"> 1)療養しながら生活している対象の健康維持・回復のための看護が実践できる。 2)様々な健康レベルにある対象を理解し、起こりうる変化をとらえた看護が実践できる。 3)保健・医療・福祉の連携における看護の役割を考え、医療チームの一員として行動できる。 4)対象の生活と健康の質を高める看護を通して、自己の看護観を深めることができる。 					
2. 展開方法					
1)健診センター実習 (2日間)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 健康予防活動について理解し、健診・検診を受ける利用者の看護を看護師とともに実施する。 				
2)人工透析室実習 (2日間)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 人工透析を受ける患者の看護を看護師とともに実施し患者の全体像を理解する。 (2) 患者にとって必要な援助を看護師とともに実施する。 				
3)化学療法室実習 (1日間)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 外来化学療法を受ける患者の看護を看護師とともに実施する。 				
4)緩和ケア病棟実習 (6日間)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 患者1名を担当し、看護師とともに援助に参加しながら患者の全体像を理解する。 (2) 患者の症状緩和や日常生活援助を看護師とともに実施する。 				
3. 実習場所					
公立甲賀病院 健診センター、人工透析部、1階東病棟、外来化学療法室					
評価方法					
評価表に基づき評価する。					
使用テキスト					
参考文献					

【専門分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数		
チームナーシング実習	6セメスター	2単位	90時間／回		
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数			
	森地 加織 (実務経験 有)	時間／回			
事前学習内容					
別途提示					
科目概要・目的					
看護師は複数の患者の状態やニードを把握し、適切かつ安全に看護を提供する必要がある。そのため、本科目では、複数患者の多重課題に対しグループで看護を実践し、連携・調整、看護の質の向上について学ぶ。また、病院組織におけるシステムを理解し、看護管理の実際を学ぶ。					
DPとの関連 *特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
<実習目標>					
1.患者の状態を統合的に理解し、それぞれのニードを充足する看護が実践できる。 2.グループ内の複数患者の状況から援助の優先度を判断し、必要な看護が安全に実践できる。 3.病院・病棟における組織の機能及び看護管理者の役割が理解できる。 4.チームナーシングの意義を理解し、チームの一員としての行動が取れる。 5.専門職業人として、看護の役割と責務を踏まえ、自己の看護観を深めることができる。					
<実習展開方法>					
1.成人期・老年期にある患者を1名受け持ち、グループで複数の患者をみていく。患者が退院時は別の患者を受け持ち、常時患者を受け持つ。					
2.実習の進め方					
1~3日目 1) 病棟の特徴や患者の入院生活を理解する。 2) 病棟の看護援助に参加しながら情報を収集し、患者の全体像を把握する。 (グループで受け持っている患者情報を、情報共有シートを用いて状態を把握する) 3) 2日目または3日目の午前は、師長に追随実習を行う。午後は病棟に戻り情報収集や一部援助に参加する。 ※師長の追随が難しい時間帯は、病棟に戻り受け持ち患者の情報収集や一部援助に参加する。					
4~11日目					
4) コーディネーター(又はリーダー)、PNS(又は看護師)に追随する。(学生が入れ替わり実習していく) 5) 追隨学生以外の学生で、グループ内の患者を協力し、優先度を考え、時間管理しながら複数患者の援助を実施する。 6) 受け持ち患者について、担当看護師と調整を図り、援助を実施していく。 7) 必要時、受け持ち患者の看護上の問題についてチームカンファレンスで検討する。 8) 5日前後に中間評価を行い、実習後半の課題を明確にする。 9) 最終日には11日間の実習を自己評価し、学びと今後の課題を確認する。					
<実習場所>	公立甲賀病院、ウォーリズ記念病院				
評価方法					
評価表に基づき評価する。					
使用テキスト					
参考文献					